

令和元年度志木市国民健康保険 レセプト疾病構造分析事業報告書

令和 3 年 3 月

志木市国民健康保険

第 1 章 事業の概要

1. 事業の目的

志木市国民健康保険被保険者のレセプトデータおよび特定健康診査の結果を分析し、医療費の動向、市民の疾病の構造、受療行動について分析を実施する。本データに基づき、本市の疾病の課題に対する具体的な方策等を検討することを目的とする。

2. 実施方法

令和元年 4 月～令和 2 年 3 月診療分の国民健康保険 医科のレセプトデータを集計した。レセプトデータは ICD10 の傷病名コードに記載される 13,175 傷病名を対象とし、本データに基づき、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、悪性新生物、腫瘍、精神および行動の障害、睡眠障害、変形性膝関節症、心疾患、脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、骨粗しょう症、腎不全、アルツハイマー病、急性上気道感染症、肺炎等について解析を行った。さらに、ICD10 の大分類に基づき解析を行った。

3. 集計・分析の対象

3.1. レセプトデータ

表 1-1 に志木市国民健康保険の平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月診療分の医科レセプトデータ数を示した。令和元年度の全レセプトデータ件数は 116,523 件であった。

表 2-1 令和元年度の志木市国民健康保険のレセプトデータ件数

	レセプト件数[件]
4月	10,412
5月	9,659
6月	9,729
7月	10,070
8月	9,316
9月	9,570
10月	9,631
11月	9,908
12月	10,330
1月	9,358
2月	9,550
3月	8,990
合計	116,523

3.2. 特定検診データ

令和元年度分： 4,539 件

平成 30 年度： 4,869 件

第 2 章

1. 国民健康保険被保険者数の構成

志木市国民健康保険の令和元年度の被保険者数の人数を図 2-1 に示す。表 2-1 にはその構成比を性別に示した。年齢区分は 5 歳とした。構成比について 20 歳未満は 9.1%, 20～59 歳は 43.0%, 60～74 歳は 47.8%であった。65 歳以上は 40.4%であった。

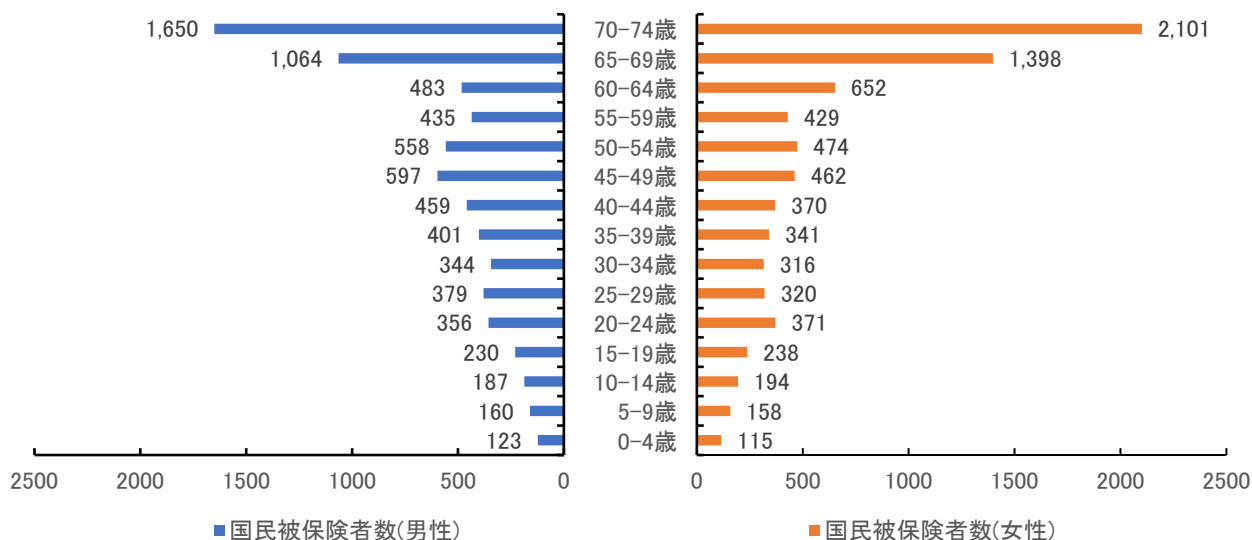


図 2-1 志木市の年齢区分別の国民健康保険被保険者数

表 2-1 志木市の年齢階級別の国民健康保険被保険者の構成比

男性		年齢区分 [歳]	女性	
人数[人]	構成比[%]		人数[人]	構成比[%]
123	1.7	0-4	115	1.4
160	2.2	5-9	158	2
187	2.5	10-14	194	2.4
230	3.1	15-19	238	3
356	4.8	20-24	371	4.7
379	5.1	25-29	320	4
344	4.6	30-34	316	4
401	5.4	35-39	341	4.3
459	6.2	40-44	370	4.7
597	8	45-49	462	5.8
558	7.5	50-54	474	6
435	5.9	55-59	429	5.4
483	6.5	60-64	652	8.2
1,064	14.3	65-69	1,398	17.6
1,650	22.2	70-74	2,101	26.5
7,426	48.3	計	7,939	51.7
2,714	36.5	65歳以上	3,499	44.1

第3章 医療費の構造分析

1. 令和元年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合

医療費の分析において、74歳は誕生日を迎えることで75歳の後期高齢者医療制度に移行するため、医療費解析は令和2年3月31日時点において74歳までの人を対象に行った。表3-1に性別、年齢階級別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療率を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点(医療費)、0日(診療日数)、0件(レセプト件数)の人を含めずに解析した。医療費、レセプト件数の合計を受療人数(医療機関を受療した人数)で除した値である平均値を示した。受療割合は、入院および入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し、100を乗じたものである。

図3-1に男性、図3-2に女性の年齢階級別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図3-1、3-2より、男女ともに総医療費、入院外医療費は子どもと高齢者が高く、一般的なカーブであった。加えて、男女ともに35-40歳から総医療費が大きく増加することがわかった。

図3-3に性別、年齢階級別の一人当たりのレセプト件数を示した。図3-3より、レセプト件数は男女ともに15-29歳が少ない傾向であり、最も少ないのは男性では20-24歳、女性では15-19歳であった。総医療費では男性は25-29歳に1つ目のピークがあり、次に35-39歳から、女性も35-39歳から急激に増加していることがわかった。入院外に着目すると、受療割合は男性は25-29歳、女性は20-24歳と男女ともに20歳代が少なかった。医療費は男性は40-44歳から、女性は35-39歳から微増し、男女ともに55-59歳で大きく増加していることがわかった。女性の70-74歳のレセプト件数は12件を超え、1ヶ月に1回は医療機関に受診していることが推定できる。

表 3-1 年齢階級別の一人当たりの総医療費, レセプト件数, 受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
男性	0-4歳	96,301	8.9	8.1	3,830	0.8	12.5	96,268	95.1
	5-9歳	45,539	6.4	6.1	0	0.0	8.7	45,539	94.4
	10-14歳	42,191	5.4	5.1	0	0.0	7.5	42,191	89.3
	15-19歳	31,805	4.1	3.8	308,770	0.4	5.2	29,922	71.3
	20-24歳	39,738	3.5	3.5	582,535	0.6	4.4	33,733	54.5
	25-29歳	116,885	4.4	3.9	2,461,606	1.3	5.4	50,267	48.3
	30-34歳	69,467	4.7	4.4	251,737	0.9	6.1	65,691	58.1
	35-39歳	157,360	5.8	5.5	2,398,965	2.0	9.8	74,530	56.4
	40-44歳	170,145	5.9	5.6	3,102,710	1.3	9.4	105,106	61.2
	45-49歳	198,945	7.0	6.5	2,685,452	1.8	11.3	117,543	60.0
	50-54歳	150,972	7.5	7.1	1,107,395	1.1	12.7	131,544	61.3
	55-59歳	302,507	8.3	7.3	1,648,908	3.2	14.1	224,486	67.1
	60-64歳	292,970	9.4	8.7	1,192,975	4.6	16.1	222,477	75.4
	65-69歳	257,317	10.0	9.3	1,476,897	4.6	15.1	179,097	83.6
	70-74歳	341,191	11.7	10.7	1,370,377	4.7	18.8	268,815	88.4
女性	0-4歳	52,061	7.2	6.5	112,420	1.7	9.6	49,979	93.9
	5-9歳	52,697	7.7	7.0	0	0.0	10.0	52,697	91.8
	10-14歳	72,493	5.7	5.3	5,588,510	0.5	7.2	38,207	84.0
	15-19歳	26,323	3.9	3.5	0	0.0	4.5	26,323	78.2
	20-24歳	36,349	4.1	4.0	221,067	1.6	5.0	30,912	65.8
	25-29歳	54,742	5.1	4.7	138,784	3.4	7.1	47,802	68.8
	30-34歳	79,401	5.8	5.5	385,193	5.4	8.0	52,559	76.3
	35-39歳	134,401	6.2	5.9	1,469,286	2.6	8.4	86,631	80.4
	40-44歳	113,505	7.9	7.3	1,068,871	1.9	11.6	87,467	76.5
	45-49歳	144,585	7.7	7.2	2,221,379	1.9	11.1	90,853	78.8
	50-54歳	134,714	8.0	7.5	1,957,578	1.7	12.1	91,466	75.7
	55-59歳	182,833	9.2	8.6	1,613,513	2.3	14.6	134,086	77.2
	60-64歳	179,747	9.7	9.0	1,503,143	3.2	14.4	122,801	84.0
	65-69歳	204,008	10.9	10.1	1,622,324	2.9	16.2	151,751	88.3
	70-74歳	254,676	12.3	11.2	1,907,962	3.9	19.5	174,732	91.5

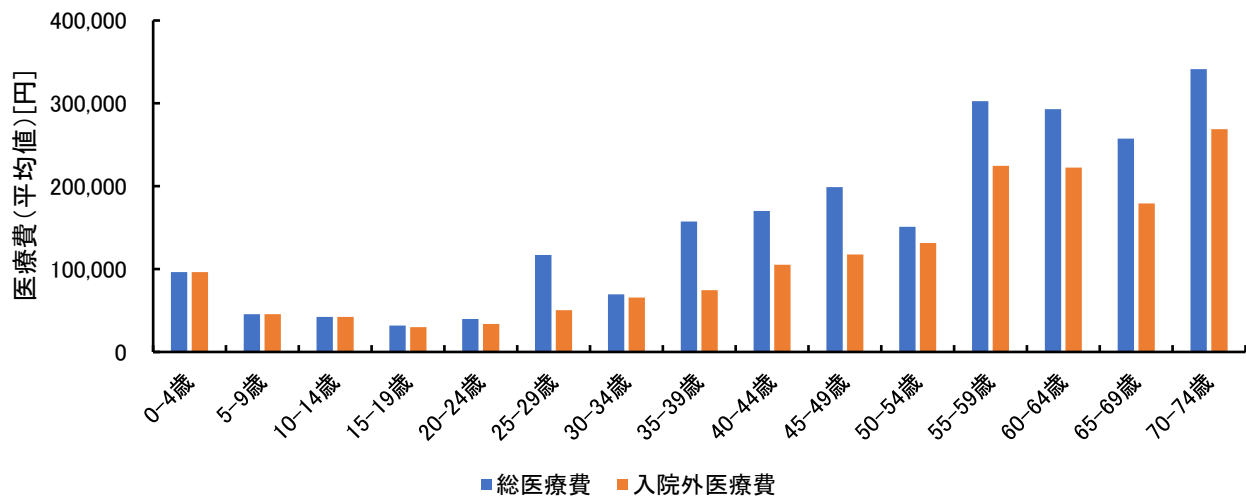


図 3-1 男性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

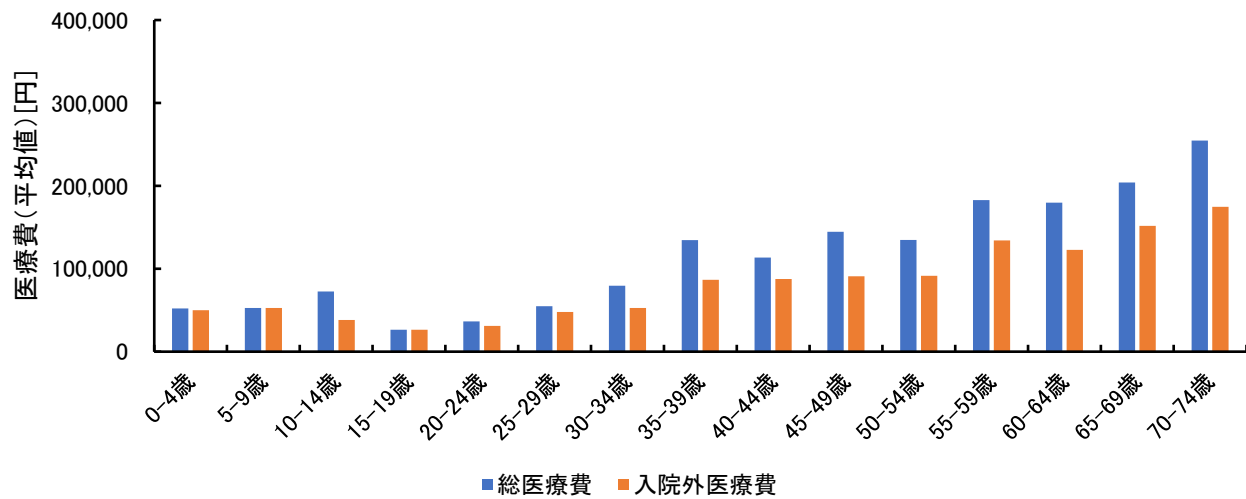


図 3-2 女性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

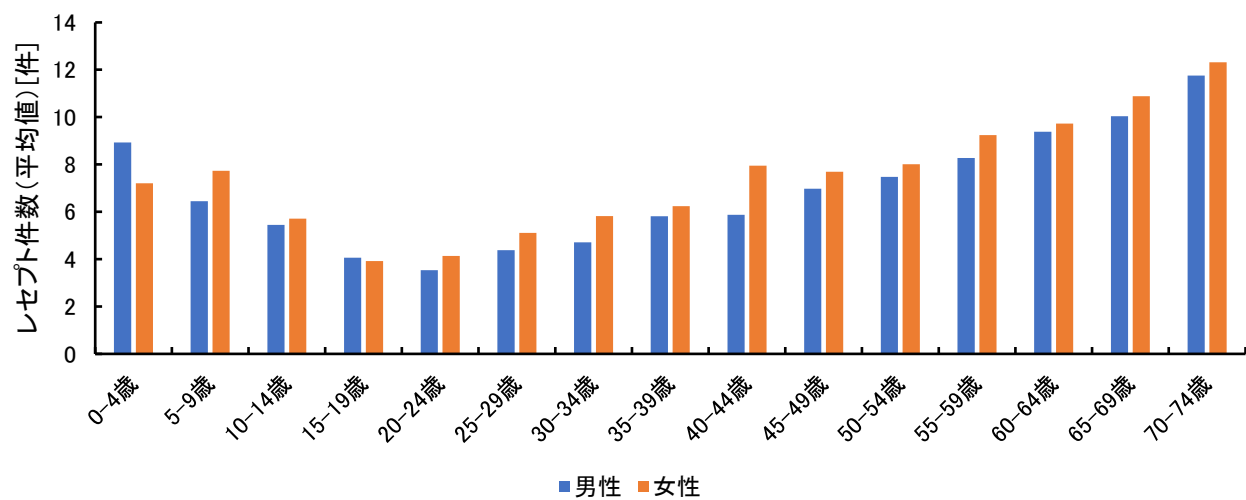


図 3-3 一人当たりの年齢階級別レセプト件数

2. 令和元年度の医療費、レセプト件数の状況

表 3-2 に全体の医療費、レセプト件数について平均値、中央値、最大値等を示した。医療費やレセプト件数は値が極端に大きい人が含まれると、平均値が大きくなる傾向がある。そのため、ここでは中央値も示すこととした。

令和元年度の受療者全体の平均年齢は 52 歳、中央値は 58 歳であった。入院と入院外の医療費を合計した総医療費は平均は 196,981 円、中央値は 56,070 円であった。入院外診療日数に着目すると最大値に 392 日とあり、該当対象者は 1 年間のレセプト件数が 55 件、傷病名が 663 個であり、複数の医療機関に頻回に受診していることからこの値が導出された。入院外のレセプト件数の最大値は 63 件であった。

表 3-2 全体の医療費、レセプト件数

	年齢 [歳]	総医療費 [円]	入院診療日数 [日]	入院点数 [円]	入院外診療日数 [日]	入院外点数 [円]	レセプト件数 [件]
平均値	52	196,981	64	1,537,191	14	142,434	9
標準偏差	20	722,241	109	2,159,500	20	503,890	7
中央値	58	56,070	12	543,900	9	54,490	7
最大値	75	16,464,330	365	16,450,620	392	12,393,890	63
25パーセントタイル	38	21,218	4	146,358	4	20,905	3
75パーセントタイル	70	124,170	59	2,000,933	16	117,440	13

3. レセプト件数が 36 件以上(平均 3 件/月)の人数

表 3-3 に令和元年度のレセプト件数が 36 件以上の年齢階級別の人数を示した。レセプト件数は医療機関を受診することにより月に 1 件提出される。つまり、月に 2 ヶ所の医療機関を受診すると 2 件提出される。1 ヶ月に多くの医療機関を受診する、あるいは特定の医療機関を複数日受診することは様々な問題が考えられる。

一般的に重複受診は同一月内に同一診療科を 3 ヶ所以上受診することをいう。頻回受診は同一月内に医療機関へ 15 日以上通院することをいう。同じ疾患で複数の医療機関を受診することは、治療効率の低下、検査の重複、調剤(投薬)の重複が考えられ、医療費の高騰を誘発するだけでなく、副作用のリスクも高まることが推定される。そのため、対策が求められる。

表 3-3 より、重複受診は男性は 50-54 歳、女性は 45-49 歳から増加し、男性は 70-74 歳、女性は 65-69 歳から急激に増加していることがわかった。

表 3-3 年齢階級別のレセプト件数 36 件/年以上の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	1	0	1
5-9歳	0	1	1
10-14歳	0	0	0
15-19歳	0	0	0
20-24歳	0	0	0
25-29歳	0	2	2
30-34歳	0	0	0
35-39歳	1	1	2
40-44歳	2	1	3
45-49歳	1	3	4
50-54歳	3	2	5
55-59歳	3	6	9
60-64歳	3	8	11
65-69歳	5	19	24
70-74歳	16	25	41

4. 頻回受診者の疾病構造

頻回受診者(予備群を含む)は、入院外診療日数が年間 120 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 93 名(平均年齢 63.5 歳)であった。男性 62 名(平均年齢 62.3 歳)、女性 31 名(平均年齢 65.8 歳)であった。総医療費は 308,402,090 円であった。

表 3-4 に ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。

表 3-5 に第 5 章の精神及び行動の障害に該当する傷病名の人数を示した。表 3-5 より、統合失調症、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の割合が高いことがわかった。

図 3-4 に注目する疾病に該当する人数を示した。図 3-4 より、高血圧、腎不全、糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患の割合が高いことがわかった。

以上より、頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて精神及び行動の障害の受診者が多いことがわかった。

表 3-4 頻回受診者の疾病分類別の該当人数と一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	38	3,783,075
第2章 新生物	21	3,813,046
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	52	4,591,482
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	81	3,660,555
第5章 精神及び行動の障害	23	1,482,157
第6章 神経系の疾患	51	3,325,927
第7章 眼及び付属器の疾患	53	3,438,783
第8章 耳及び乳様突起の疾患	10	1,365,622
第9章 循環器系の疾患	79	3,763,139
第10章 呼吸器系の疾患	62	3,144,417
第11章 消化器系の疾患	82	3,568,709
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	65	3,714,291
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	76	3,345,484
第14章 腎尿路性器系の疾患	68	4,330,923
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	10	4,210,335
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	56	3,360,526
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	47	4,150,414

表 3-5 頻回受診者の精神及び行動の障害の傷病名における該当人数

傷病名	該当人数[人]
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	10
気分[感情]障害	10
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	14
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1

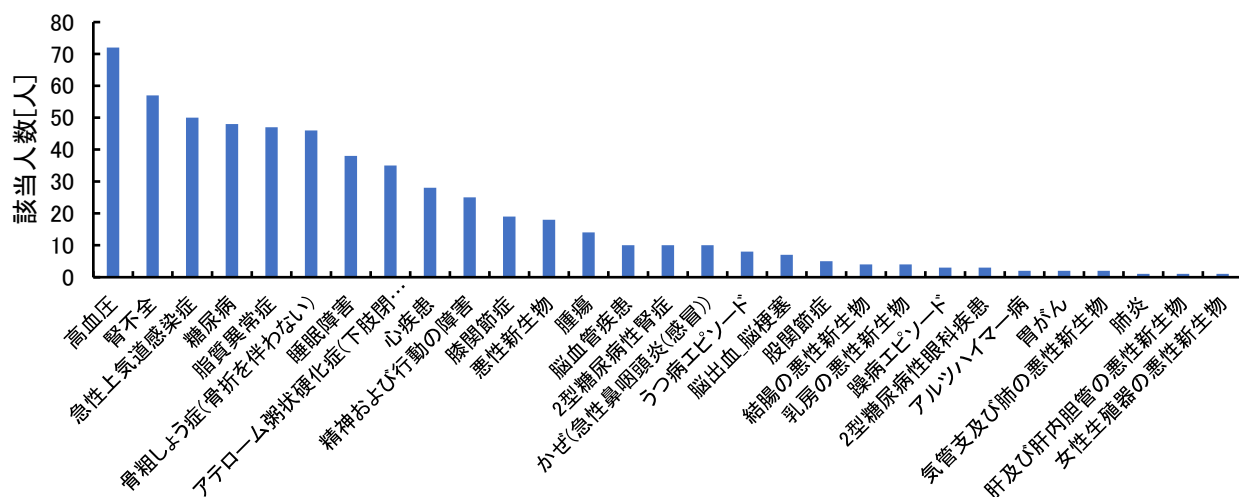


図 3-4 頻回受診者の注目する疾患における該当人数

5. 長期入院患者の疾病構造

長期入院患者は、入院期間が 250 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 46 名(平均年齢 60.7 歳)であった。男性 25 名(平均年齢 58.3 歳)、女性 21 名(平均年齢 63.5 歳)であった。総医療費は 256,114,240 円であった。

表 3-6 に ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。

表 3-7 に第 5 章の精神及び行動の障害に該当する傷病名の人数を示した。表 3-7 より、統合失調症、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の割合が高いことがわかった。

図 3-5 に注目する疾病に該当する人数を示した。図 3-5 より、精神及び行動の障害、睡眠障害、高血圧の割合が高いことがわかった。

表 3-6 長期入院者の疾病分類別の該当人数と一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	8	7,993,484
第2章 新生物	3	10,117,917
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8	6,442,450
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	21	6,177,061
第5章 精神及び行動の障害	30	4,763,560
第6章 神経系の疾患	35	5,529,225
第7章 眼及び付属器の疾患	9	6,861,083
第8章 耳及び乳様突起の疾患	1	7,885,780
第9章 循環器系の疾患	25	6,066,282
第10章 呼吸器系の疾患	25	6,251,159
第11章 消化器系の疾患	36	5,509,989
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	19	6,269,637
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	17	6,302,231
第14章 腎尿路性器系の疾患	8	6,602,409
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20	6,591,194
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4	7,318,845

表 3-7 長期入院者の精神及び行動の障害の傷病名における該当人数

傷病名	該当人数[人]
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	24
気分[感情]障害	8
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0

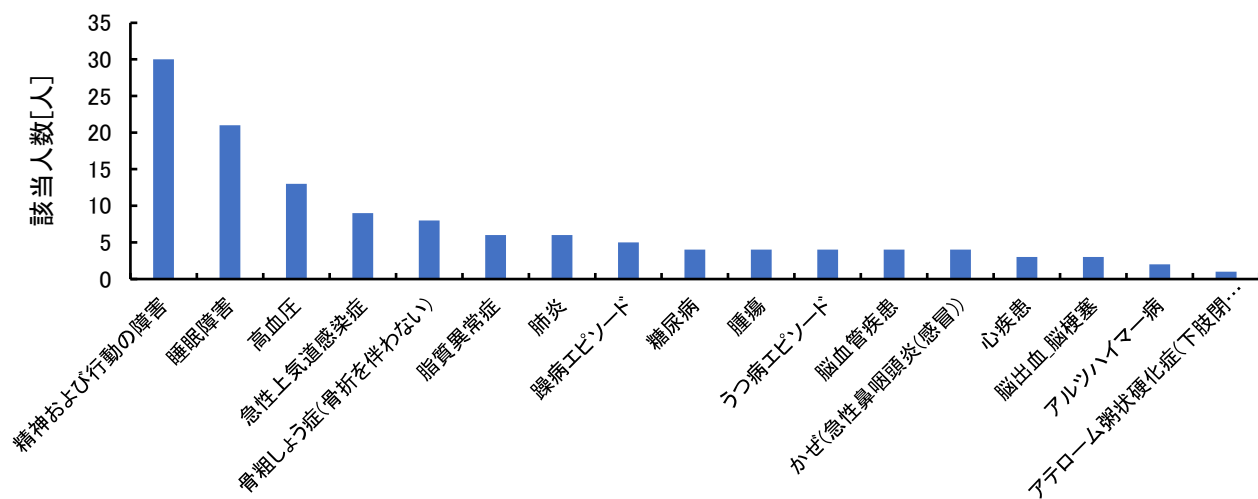


図 3-5 長期入院者の注目する疾患における該当人数

第4章 国保医療費の疾病構造

1. 疾病分類別の総医療費と受療割合（入院，入院外を含む全体の医療費）

表 4-1 に疾病分類別の総医療費合計，総医療費合計を患者数で除した一人当たりの医療費（平均医療費），患者数を示した。疾病分類別の医療費全体のインパクトを示すために，総医療費合計を記載した。1 年間にそれぞれの分類に対し，1 回でも病名が記載された場合に，患者としてカウントした。そのため，患者数は頭数であり，繰り返し受診したところによる延べ人数ではない。総医療費合計（入院と入院外）はそれぞれの患者の医療費の合計である。（例として，糖尿病と胃炎の診断を受けると，第 4 章と第 11 章にそれぞれ患者数としてカウントされる）

図 4-1 に年齢階級別の総医療費合計，図 4-2 に年齢階級別の一人当たりの医療費，図 4-3 に年齢階級別の患者数を示した。図 4-3 より，患者数に着目すると，第 10 章の呼吸器，第 11 章の消化器が多く，次いで第 4 章の内分泌，栄養及び代謝疾患，第 9 章の循環器，第 6 章の眼及び付属器の疾患のボリュームが大きいことがわかった。ボリュームが大きい分，総医療費合計も大きくなっていた。図 4-2 より，一人当たりの医療費に着目すると，第 16 章の周産期に発生した産じょく，第 3 章の血液及び造血器並びに免疫機構の障害（鉄欠乏性貧血などの貧血が含まれる），第 2 章の新生物（がんが含まれる），第 19 章の損傷，中毒及びその他の外因の疾患，第 14 章の腎尿路生殖器系の疾患（腎不全，膀胱炎などが含まれる）の医療費が大きいことがわかった。

表 4-1 疾病分類別の総医療費合計，一人当たりの総医療費，患者数

傷病分類名	総医療費合計 [円]	一人当たり医療費 [円]	患者数[人]
第1章 感染症及び寄生虫症	722,835,900	451,490	1,601
第2章 新生物	544,560,870	559,097	974
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	730,528,000	661,710	1,104
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,540,434,470	364,945	4,221
第5章 精神及び行動の障害	649,565,860	410,079	1,584
第6章 神経系の疾患	1,249,030,470	440,731	2,834
第7章 眼及び付属器の疾患	1,091,857,420	262,971	4,152
第8章 耳及び乳様突起の疾患	196,100,620	246,358	796
第9章 循環器系の疾患	1,560,242,610	372,195	4,192
第10章 呼吸器系の疾患	1,427,610,030	247,377	5,771
第11章 消化器系の疾患	1,826,832,110	366,907	4,979
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	1,108,641,540	389,407	2,847
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,354,375,040	343,925	3,938
第14章 腎尿路生殖器系の疾患	870,841,800	550,121	1,583
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	9,642,620	200,888	48
第16章 周産期に発生した病態	3,779,660	755,932	5
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	85,741,930	516,518	166
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,185,719,530	450,159	2,634
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	581,508,170	522,000	1,114

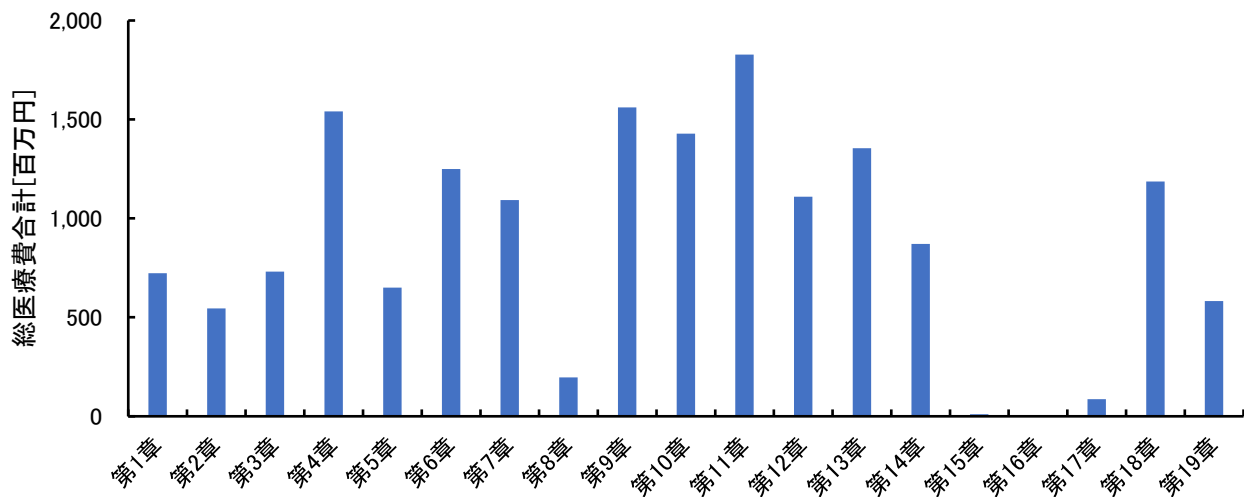


図 4-1 疾病分類別の総医療費合計

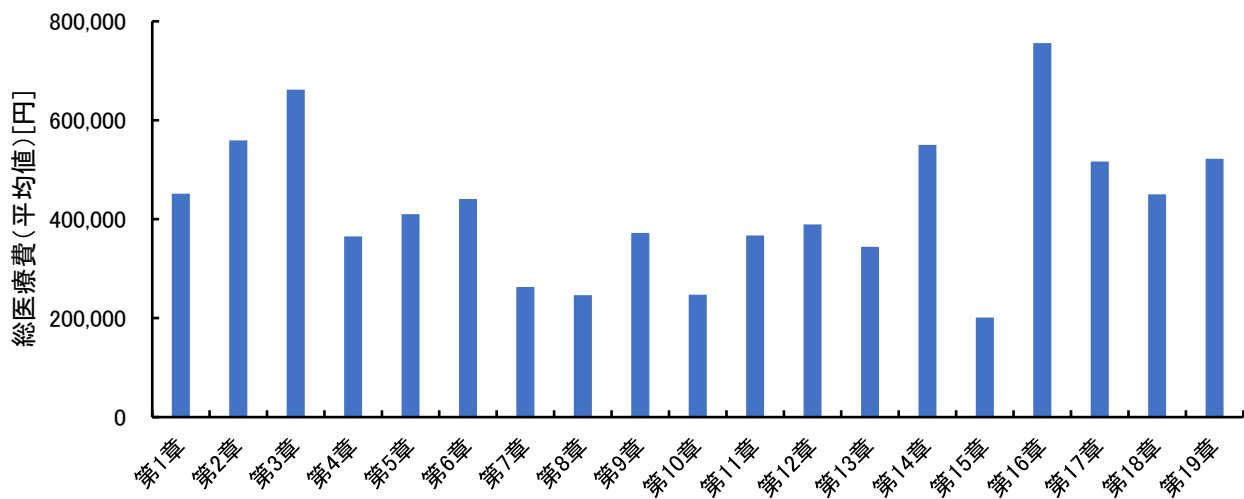


図 4-2 疾病分類別の一人当たりの総医療費

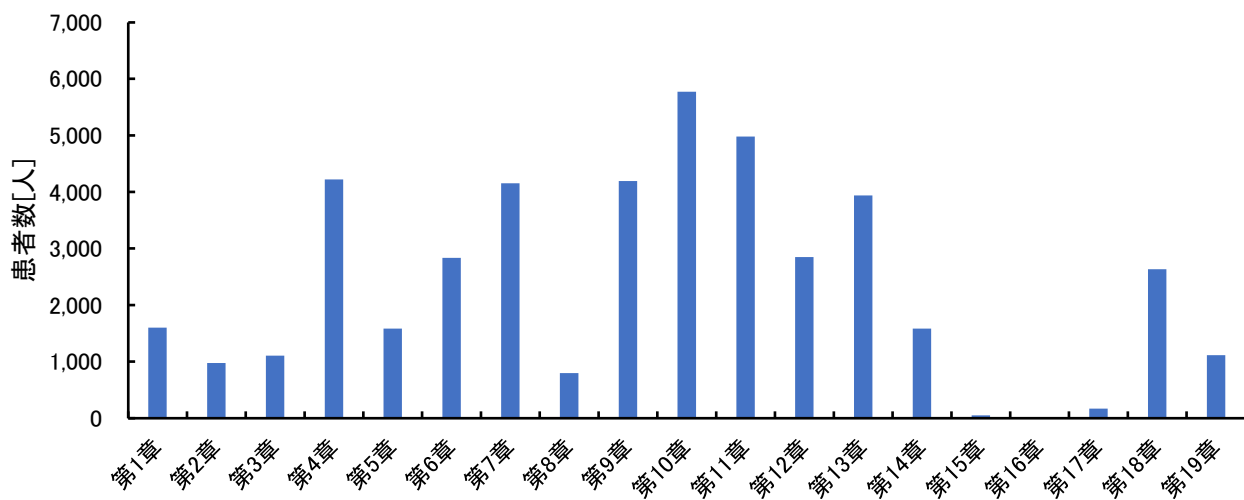


図 4-3 疾病分類別の患者数

表 4-2, 図 4-4 に疾病分類別の年齢階級別総医療費合計, 表 4-3 に受療割合を示した。表 4-3 より, 幼児, 若年期にウエイトが大きいものとして下記の章が挙げられる。

- 第 1 章 感染症及び寄生虫症(ウイルス性胃腸炎, ウイルス性いぼ, 真菌症等)
- 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- 第 8 章 耳及び乳様特記の疾患(外耳炎, 中耳炎等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)

一方で, 高齢期に増えてくる疾患として, 下記の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路生殖器系の疾患

表 4-2, 図 4-4 より, 年齢階級別医療費は, 65-59 歳以降の割合が大きいことがわかった。70-74 歳に着目すると, 総医療費合計で 5 億円以上の疾患として, 下記の章が挙げられる。

- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-2 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

単位[円]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	5,772,110	5,708,160	2,375,620	1,423,960	4,902,490	15,681,490	4,871,720	25,710,930
第2章 新生物	110,990	301,370	374,690	194,880	559,570	12,467,780	2,205,130	12,343,270
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	332,120	1,121,300	648,610	192,550	1,908,100	15,191,500	3,702,820	20,760,380
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	1,049,660	5,980,390	637,220	2,895,810	13,085,350	7,018,560	35,792,610
第5章 精神及び行動の障害	305,650	1,541,660	6,930,410	923,060	4,031,990	5,267,890	10,505,600	39,895,180
第6章 神経系の疾患	140,900	813,880	6,702,740	1,019,900	6,005,090	17,870,680	14,326,910	54,158,580
第7章 眼及び付属器の疾患	4,296,920	7,110,800	5,740,030	4,049,420	3,704,580	19,199,080	6,826,240	22,811,750
第8章 耳及び乳様突起の疾患	3,773,020	5,279,460	3,229,170	976,470	452,200	1,467,950	1,652,170	5,555,400
第9章 循環器系の疾患	1,032,000	912,400	522,990	544,050	936,310	12,590,290	2,746,050	28,006,290
第10章 呼吸器系の疾患	16,351,080	13,727,770	16,675,310	6,128,160	9,169,190	22,324,480	18,751,580	50,317,450
第11章 消化器系の疾患	4,872,390	2,078,640	7,178,000	1,349,660	5,898,970	23,241,510	19,400,050	50,926,260
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	12,872,140	8,763,480	11,790,700	3,737,290	6,250,280	17,249,980	6,064,560	35,754,370
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	463,600	441,730	7,534,070	1,472,000	2,795,460	5,225,010	9,945,040	33,553,960
第14章 腎尿路性器系の疾患	98,010	387,660	0	596,550	3,142,270	14,324,470	6,433,830	24,515,340
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	82,880	0	0	0	483,870	1,815,470	4,045,880	2,146,630
第16章 周産期に発生した病態	3,128,000	0	0	0	0	0	651,660	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	4,102,640	545,210	203,060	0	22,400	24,270	233,310	380,180
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,981,870	2,678,430	1,870,420	1,632,040	3,154,170	15,765,680	14,850,200	33,312,830
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,132,420	2,311,300	4,003,320	2,277,370	2,780,900	16,276,410	3,096,990	13,077,170

単位[円]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	20,258,510	38,387,710	21,068,230	38,963,930	95,290,190	127,225,350	315,195,500
第2章 新生物	9,856,670	26,878,450	13,454,110	21,125,200	25,175,370	118,347,210	301,166,180
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	33,133,860	26,673,390	21,543,550	41,824,020	56,798,860	150,120,380	356,576,560
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	40,102,060	86,481,760	56,064,660	95,101,040	154,998,080	319,294,700	721,932,570
第5章 精神及び行動の障害	33,707,790	57,945,750	37,141,680	54,551,130	48,812,150	111,627,520	236,378,400
第6章 神経系の疾患	46,948,480	76,010,100	50,024,220	77,194,220	115,185,720	229,310,560	553,318,490
第7章 眼及び付属器の疾患	32,803,820	45,637,210	33,521,390	53,937,750	126,858,530	207,616,460	517,743,440
第8章 耳及び乳様突起の疾患	11,132,090	6,505,040	3,026,390	9,584,220	21,289,310	35,963,640	86,214,090
第9章 循環器系の疾患	25,441,660	65,466,040	54,023,300	105,380,970	138,235,380	347,437,450	776,967,430
第10章 呼吸器系の疾患	48,924,040	72,230,020	54,095,250	79,222,500	134,902,210	278,527,590	606,263,400
第11章 消化器系の疾患	59,066,740	98,618,250	67,739,700	126,797,110	175,043,970	378,346,750	806,274,110
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	34,350,850	70,226,430	42,922,110	63,805,960	113,220,510	192,592,650	489,040,230
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	31,435,500	71,689,450	54,604,270	83,991,610	127,355,280	272,397,430	651,470,630
第14章 腎尿路性器系の疾患	27,377,400	39,371,650	43,330,410	55,915,690	75,611,090	170,642,390	409,095,040
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	536,110	147,480	18,590	0	0	112,790	252,920
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	4,510,070	2,597,740	914,220	9,465,690	3,857,540	12,653,730	46,231,870
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	41,774,390	62,230,450	44,995,290	57,020,030	117,165,220	249,122,180	537,166,330
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,826,370	38,379,610	28,481,480	40,589,020	79,728,850	116,033,570	229,513,390

表 4-3 疾病分類別の年齢階級別受療割合

単位[%]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	24.4	22.6	10.5	5.6	7.0	6.7	5.6	6.5
第2章 新生物	0.4	0.6	0.5	0.2	0.8	1.4	1.7	3.0
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.8	2.8	1.0	0.6	1.5	1.9	3.6	3.2
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.0	1.3	1.3	1.3	3.0	2.4	5.6	7.7
第5章 精神及び行動の障害	0.4	4.1	3.7	2.6	4.4	6.4	9.2	11.6
第6章 神経系の疾患	0.4	1.9	3.4	3.2	4.1	7.9	9.5	11.7
第7章 眼及び付属器の疾患	13.9	28.3	26.5	20.7	8.7	9.9	13.6	13.7
第8章 耳及び乳様突起の疾患	16.4	20.4	12.3	3.8	1.7	1.9	2.7	2.4
第9章 循環器系の疾患	0.4	0.9	1.0	1.3	0.6	1.9	2.6	3.6
第10章 呼吸器系の疾患	82.4	78.6	58.5	35.0	26.0	25.6	30.9	33.7
第11章 消化器系の疾患	10.1	7.5	5.2	5.1	7.6	10.0	15.8	16.2
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	50.8	40.9	28.6	19.2	12.8	12.6	13.3	13.6
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1.3	1.6	5.8	3.6	4.8	5.9	8.5	11.2
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.8	1.3	0.0	1.9	6.5	6.3	8.2	7.8
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.4	0.0	0.0	0.0	0.7	1.6	2.7	0.4
第16章 周産期に発生した病態	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.7	0.3	0.8	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6.7	7.5	5.5	5.1	4.5	6.3	8.9	8.1
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	8.8	8.8	13.4	8.5	3.0	3.0	3.3	2.8

単位[%]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	7.7	7.3	6.6	9.3	10.9	11.0	14.3
第2章 新生物	2.8	3.7	5.2	4.9	6.9	9.2	12.2
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6.2	5.0	6.4	6.1	7.2	10.6	12.0
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	11.0	14.9	20.8	25.0	36.7	44.2	50.4
第5章 精神及び行動の障害	13.8	12.7	12.2	12.7	10.2	10.5	12.3
第6章 神経系の疾患	14.7	16.3	16.4	19.3	20.3	23.6	29.9
第7章 眼及び付属器の疾患	14.2	15.4	14.2	21.3	30.7	36.1	44.2
第8章 耳及び乳様突起の疾患	2.5	2.7	2.3	3.5	4.6	6.0	7.0
第9章 循環器系の疾患	7.5	12.5	19.4	25.5	33.4	43.9	54.4
第10章 呼吸器系の疾患	33.5	30.7	28.6	30.9	36.6	38.7	42.2
第11章 消化器系の疾患	20.5	23.3	26.1	31.5	40.2	45.5	53.5
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	14.5	13.7	12.5	14.2	17.0	17.7	23.5
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	14.5	18.9	17.9	25.9	31.1	37.0	44.9
第14章 腎尿路性器系の疾患	7.7	8.3	10.4	8.3	11.3	11.9	16.3
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.6	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
第16章 周産期に発生した病態	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0.6	0.7	0.7	1.5	0.9	1.6	1.9
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10.3	12.7	13.2	14.5	19.8	23.3	28.6
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.8	5.3	6.2	6.6	6.6	9.1	10.4

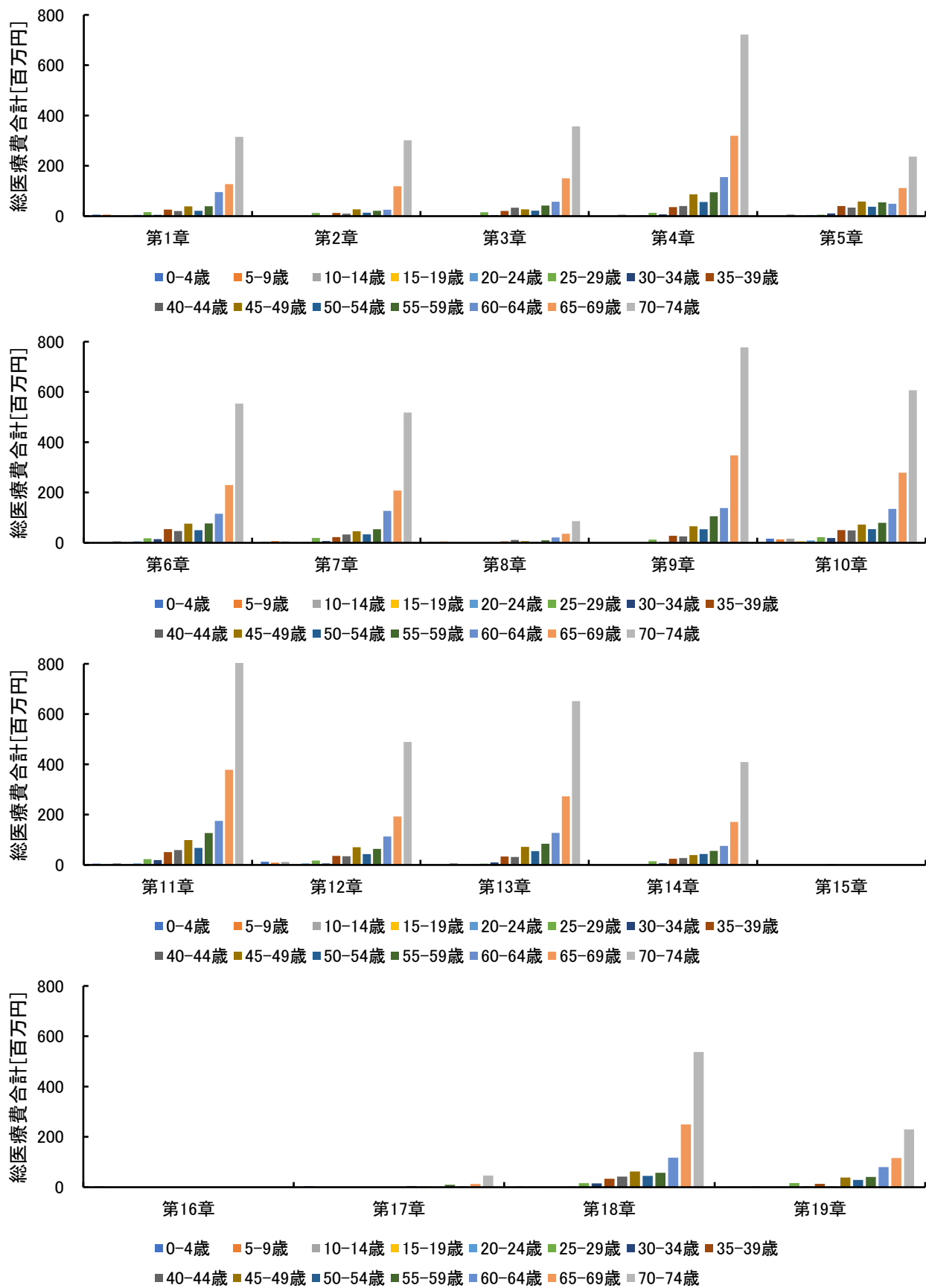


図 4-4 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合

表 4-4, 図 4-5 に疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値を示した。20 歳未満は人数が少ないため、20-24 歳より記載する。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。表 4-4, 図 4-5 より、第 6 章の睡眠障害を含む神経系の疾患は 30-34 歳から急激に増加している。

表 4-5, 図 4-6 に疾病分類別の入院受療割合を示した。表 4-5, 図 4-6 より、55-59 歳以降から大きく増加し、受療割合が 1%を超えている疾患として、下記の章が挙げられる。

- ・ 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- ・ 第 5 章 精神及び行動の障害(アルツハイマー病, 統合失調症, 気分[感情]障害等)
- ・ 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- ・ 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- ・ 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- ・ 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- ・ 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-4 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

傷病名分類	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	275,265	123,345	463,570	1,604,320	0	1,373,340	1,618,220	661,190	754,780	474,320	887,060
第2章 新生物	0	0	0	0	0	4,831,440	0	1,759,370	227,195	832,850	547,800
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	304,300	249,155	94,265	1,048,720	2,254,730	570,230	1,103,730	1,193,030	265,160	903,880	876,015
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	79,600	0	493,120	4,159,860	1,551,050	3,100,020	552,465	345,980	775,360	673,380
第5章 精神及び行動の障害	0	79,600	1,491,720	3,325,590	1,218,180	1,948,110	3,100,020	889,780	1,196,590	1,890,040	1,255,420
第6章 神経系の疾患	433,075	465,150	306,880	3,079,500	3,207,295	3,046,270	3,100,020	2,085,575	875,130	1,579,310	887,990
第7章 眼及び付属器の疾患	0	221,430	0	2,588,000	2,254,730	1,373,340	2,546,840	1,069,560	343,165	486,305	574,640
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	448,550	367,330
第9章 循環器系の疾患	0	0	0	2,341,910	0	570,230	2,296,755	939,950	295,855	779,500	812,100
第10章 呼吸器系の疾患	304,300	108,115	216,635	688,130	181,630	502,935	1,555,855	552,465	389,160	804,330	827,190
第11章 消化器系の疾患	231,490	221,430	119,930	688,130	686,130	1,948,110	1,103,730	1,756,690	545,320	784,850	678,460
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	231,490	162,690	463,570	1,604,320	5,568,670	1,948,110	1,618,220	1,380,630	1,414,560	500,090	906,395
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	0	306,880	1,146,225	0	1,373,340	1,103,730	2,085,575	342,175	779,500	606,600
第14章 腎尿路性器系の疾患	0	0	266,085	493,120	132,965	1,551,050	1,618,220	504,560	384,965	572,760	996,565
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	103,950	94,265	290,210	0	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	606,600
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	103,950	463,570	1,604,320	540,000	502,935	1,360,975	1,759,370	337,590	792,685	812,100
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	158,680	517,350	327,190	0	0	435,640	1,493,490	1,070,900	1,147,745	886,480	565,850

表 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

単位[%]

傷病名分類	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0.8	0.9	0.8	0.4	0	0.7	0.3	0.5	1.4	0.9	1.2
第2章 新生物	0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.3	0.2	0.3	0.5	0.8	1.1
第3章 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0.4	0.9	1.2	0.8	0.4	0.5	0.3	0.5	0.9	1	1.3
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.3	0.4	0.2	1.2	0.6	1.4	0.3	1.6	2.7	2.1	2.8
第5章 精神及び行動の障害	0.1	0.4	0.5	1.1	0.7	1	0.5	1.6	1	1	1.3
第6章 神経系の疾患	0.6	0.7	1.1	1.5	1	1.1	0.7	1.6	2.2	1.6	2.3
第7章 眼及び付属器の疾患	0.3	1	0.2	0.5	0.4	0.7	0.4	0.9	1.9	1.1	1.9
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0	0.2	0.2	0.3	0.2
第9章 循環器系の疾患	0.1	0.3	0.2	0.8	0.2	1	0.4	1.5	2.8	2.5	3.2
第10章 呼吸器系の疾患	0.7	1.4	0.9	1.2	1.1	1.1	0.8	1.6	2.5	2	2.3
第11章 消化器系の疾患	0.6	1	2	1.8	1.3	1.4	1.1	2.2	3	2.8	3.6
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0.6	0.6	0.5	0.9	0.4	1	0.7	1.2	1.4	1.3	1.7
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.3	0.3	0.8	0.8	0.2	1.2	0.9	1.2	2.1	1.6	2.8
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.1	0.3	0.9	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	1.1	1.1	1.5
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.3	1	1.8	0.4	0.2	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0	0.1
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.3	0.7	1.1	0.9	0.8	0.9	0.8	1	2.2	1.9	2.3
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.4	0.4	0.5	0.3	0	0.7	0.5	0.7	0.9	0.8	1.1

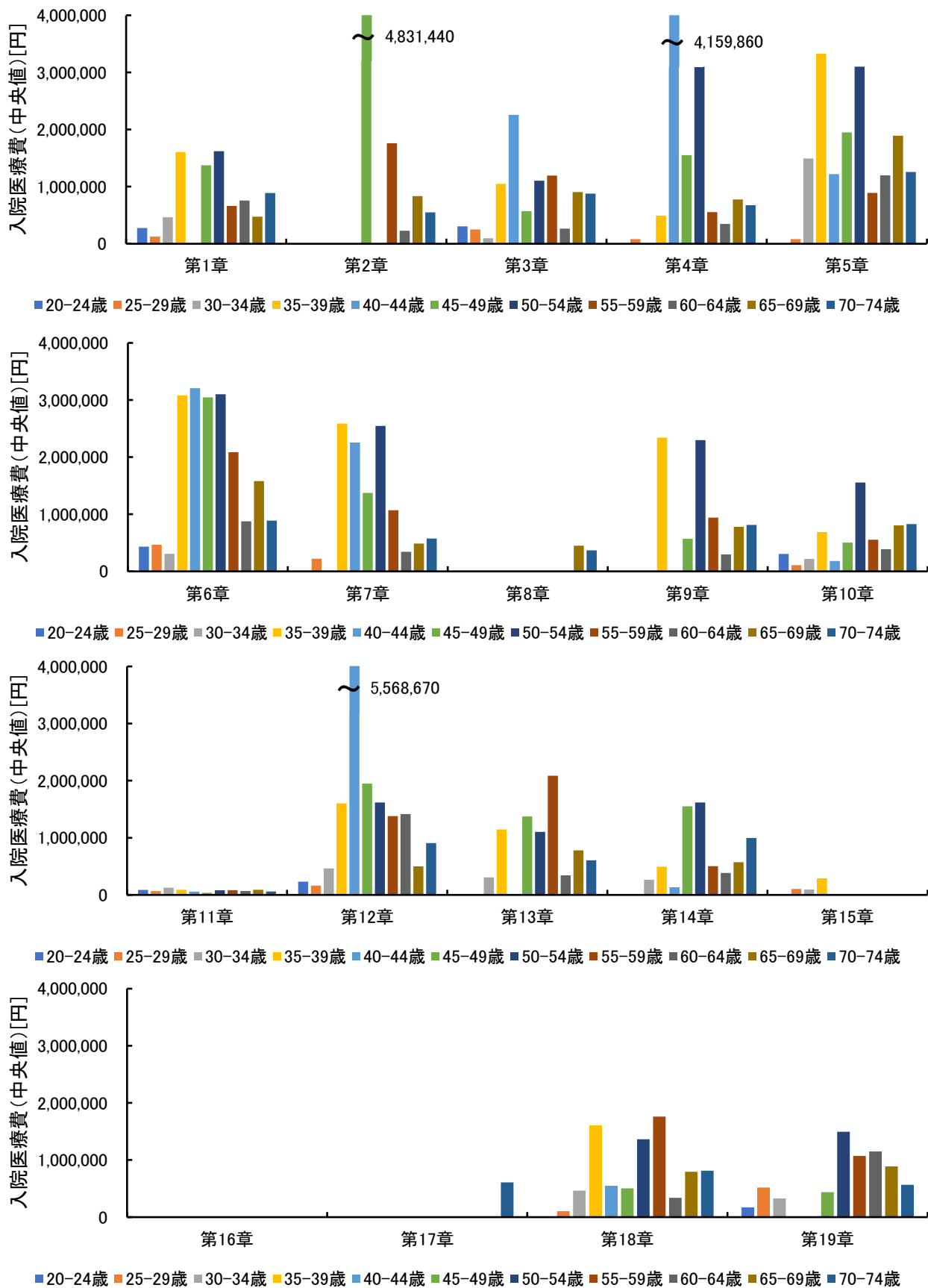


図 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

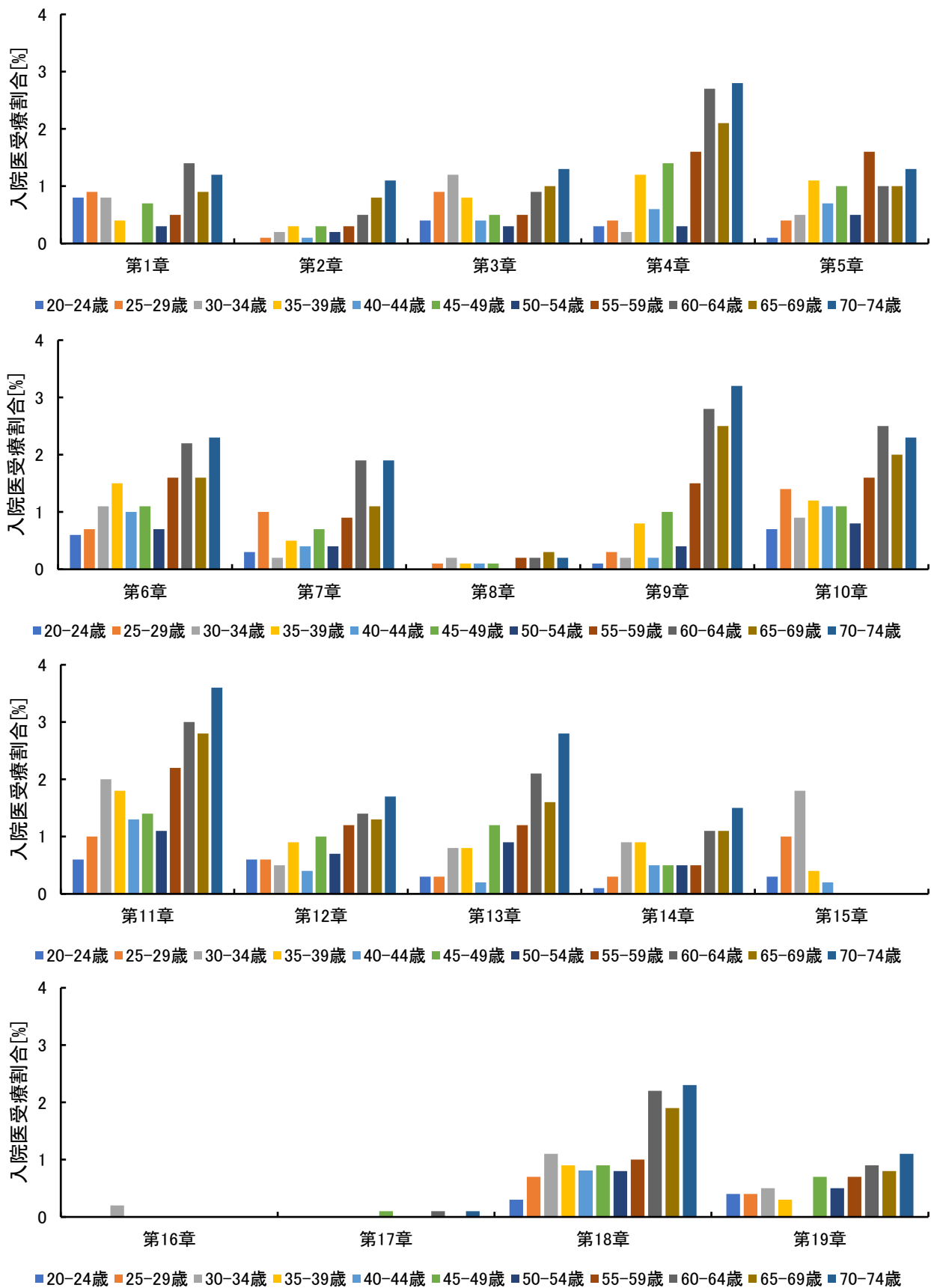


図 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合

表 4-6, 図 4-7 に疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値を示した。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。

表 4-6, 図 4-7 より、総医療費合計の傾向と入院外医療費の傾向は類似していることがわかった。

- 第 1 章から第 19 章までのすべての章で 0-4 歳, 5-9 歳の幼少期の医療費が高く、それ以降は減少するが、30-34 歳から再び増加する傾向であることがわかった。
- 第 5 章の統合失調症等を含む精神及び行動の障害は 40-44 歳, 50-54 歳, 70-74 歳のタイミングで大きく医療費が増加することがわかった。

表 4-7, 図 4-8 に疾病分類別の入院受療割合を示した。表 4-7, 図 4-8 より、第 10 章の風邪や咽頭痛等が含まれる呼吸器系の疾患は他の章と比べ全体的に高い傾向にあり、特に、幼児期と高齢期に高い割合であることがわかった。

年齢とともに受療割合が増加している疾病として、以下の章が挙げられる。

- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕, 食道炎, 胃潰瘍等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛などの廃部疾患, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 18 章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	81,200	59,465	46,180	39,700	35,410	45,715	71,330	91,570
第2章 新生物	0	0	0	0	59,770	79,370	156,180	87,025
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	122,000	163,055	62,750	57,660	85,720	74,845	93,710
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	184,325	61,230	49,650	62,905	66,700	94,970	83,865
第5章 精神及び行動の障害	0	66,050	84,625	64,345	48,865	78,070	79,710	84,550
第6章 神経系の疾患	0	130,075	85,010	59,210	76,470	66,785	79,710	93,710
第7章 眼及び付属器の疾患	82,880	63,455	45,250	26,180	25,910	43,255	34,910	38,660
第8章 耳及び乳様突起の疾患	82,210	64,810	46,550	25,070	19,080	54,950	40,455	52,130
第9章 循環器系の疾患	0	219,010	97,695	79,925	78,245	79,050	118,190	98,700
第10章 呼吸器系の疾患	49,285	43,895	36,380	21,950	22,290	33,035	34,905	36,965
第11章 消化器系の疾患	75,500	63,055	62,595	34,550	42,630	54,950	66,630	75,820
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	63,570	55,620	45,220	24,445	23,700	41,990	38,755	49,070
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	81,190	64,400	71,485	61,230	48,640	45,490	55,225	60,345
第14章 腎尿路性器系の疾患	0	96,125	0	52,200	42,630	44,850	57,790	66,510
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	34,880	39,870	41,040	31,420
第16章 周産期に発生した病態	83,195	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	566,245	0	47,610	0	0	0	0	0
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	115,865	74,630	59,470	29,265	46,620	52,550	87,840	75,300
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	96,650	74,635	60,950	42,235	41,175	50,375	59,560	44,985

単位[円]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	81,585	82,110	118,120	128,250	135,820	133,360	159,900
第2章 新生物	143,900	89,125	118,135	161,935	128,090	148,510	190,080
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	107,145	120,560	114,275	141,310	131,110	140,975	184,145
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	87,210	101,140	88,680	101,465	95,190	104,250	120,490
第5章 精神及び行動の障害	106,840	90,935	123,480	124,650	123,800	122,110	150,300
第6章 神経系の疾患	93,870	94,380	115,915	124,680	122,450	121,860	142,900
第7章 眼及び付属器の疾患	64,775	64,940	69,775	69,515	97,270	98,560	124,345
第8章 耳及び乳様突起の疾患	102,910	56,070	60,435	102,005	125,095	126,735	171,245
第9章 循環器系の疾患	88,560	92,650	83,545	97,435	91,020	99,550	115,230
第10章 呼吸器系の疾患	46,170	54,455	67,030	70,220	80,740	97,710	121,815
第11章 消化器系の疾患	80,150	75,170	88,680	104,460	103,660	109,000	126,350
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	61,130	73,690	82,590	112,470	104,780	120,300	140,470
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	68,810	65,430	89,105	101,360	112,170	116,350	133,600
第14章 腎尿路性器系の疾患	80,150	95,470	88,500	127,080	127,950	136,830	162,425
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	73,030	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	101,830	85,610	178,390	148,830	249,950	143,660	190,285
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	120,940	86,835	101,730	114,810	114,590	125,300	148,380
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	88,580	159,140	107,230	141,650	155,070	133,450	186,110

表 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費受療割合

単位[%]

傷病名分類	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	24.4	22.6	10.5	5.6	7	6.6	5.6	6.3
第2章 新生物	0.4	0.6	0.5	0.2	0.8	1.3	1.7	3
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.8	2.8	1	0.6	1.5	1.7	3.6	3.1
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	1.3	1.3	1.3	3	2.3	5.6	7.5
第5章 精神及び行動の障害	0.4	4.1	3.7	2.6	4.4	6.4	9.2	11.2
第6章 神経系の疾患	0.4	1.9	3.4	3.2	4.1	7.7	9.5	11.2
第7章 眼及び付属器の疾患	13.9	28.3	26.5	20.7	8.7	9.7	13.6	13.6
第8章 耳及び乳様突起の疾患	16.4	20.4	12.3	3.8	1.7	1.9	2.7	2.4
第9章 循環器系の疾患	0.4	0.9	1	1.3	0.6	1.7	2.6	3.5
第10章 呼吸器系の疾患	82.4	78.6	58.5	35	26	25.5	30.9	33.4
第11章 消化器系の疾患	10.1	7.5	5.2	5.1	7.6	9.9	15.8	15.8
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	50.8	40.9	28.6	19.2	12.8	12.4	13.3	13.3
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1.3	1.6	5.8	3.6	4.8	5.9	8.5	11.1
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.8	1.3	0	1.9	6.5	6.2	8.2	7.7
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.4	0	0	0	0.7	1.6	2.7	0.4
第16章 周産期に発生した病態	1.7	0	0	0	0	0	0.2	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.7	0.3	0.8	0	0.1	0.1	0.2	0.3
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6.7	7.5	5.5	5.1	4.5	6.2	8.9	8
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	8.8	8.8	13.4	8.5	3	2.9	3.3	2.7

単位[%]

傷病名分類	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	7.7	7.3	6.5	9.3	10.8	11	14.2
第2章 新生物	2.8	3.6	5.2	4.9	6.9	9.2	12.1
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6	4.9	6.4	6.1	7.2	10.6	11.8
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	10.7	14.5	20.8	25	36.5	44	50.2
第5章 精神及び行動の障害	13.6	12.3	12.1	12.6	10	10.3	12.1
第6章 神経系の疾患	14.5	16	16.3	19.2	20	23.3	29.7
第7章 眼及び付属器の疾患	14.2	15.3	14.1	21.3	30.6	36	44.1
第8章 耳及び乳様突起の疾患	2.4	2.7	2.3	3.5	4.6	6	7
第9章 循環器系の疾患	7.5	12.4	19.4	25.5	33.3	43.6	54.2
第10章 呼吸器系の疾患	33.4	30.4	28.5	30.9	36.4	38.5	42
第11章 消化器系の疾患	20.1	22.9	26	31.4	39.9	45.1	53.2
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	14.4	13.4	12.4	14.2	17	17.6	23.4
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	14.4	18.7	17.8	25.8	31.1	36.9	44.8
第14章 腎尿路性器系の疾患	7.6	8.3	10.4	8.3	11.3	11.8	16.2
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.6	0.2	0.1	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0.6	0.7	0.7	1.5	0.9	1.6	1.9
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10.1	12.7	13.1	14.5	19.7	23.1	28.4
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.8	5.2	6.2	6.6	6.6	9.1	10.4

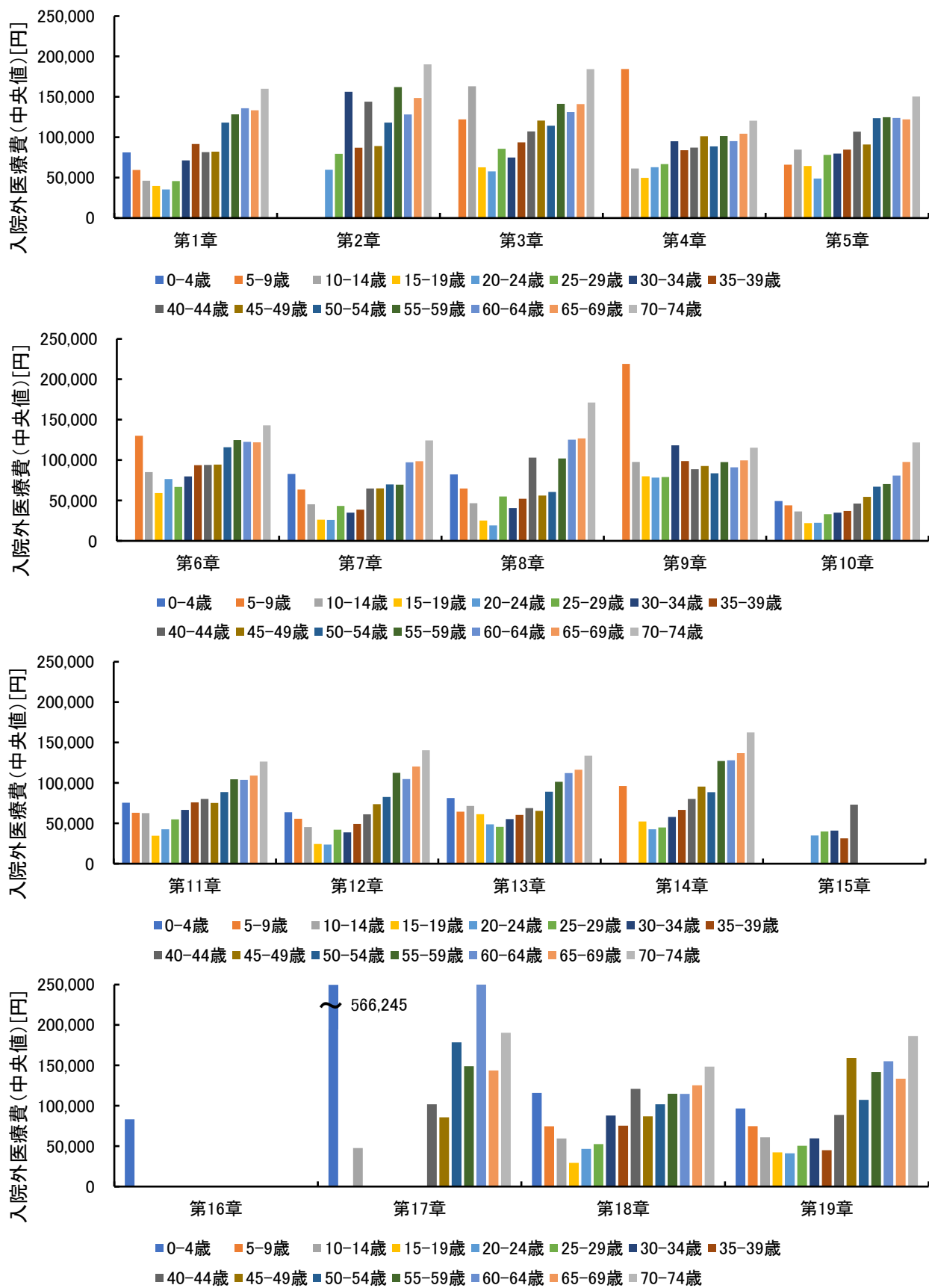


図 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

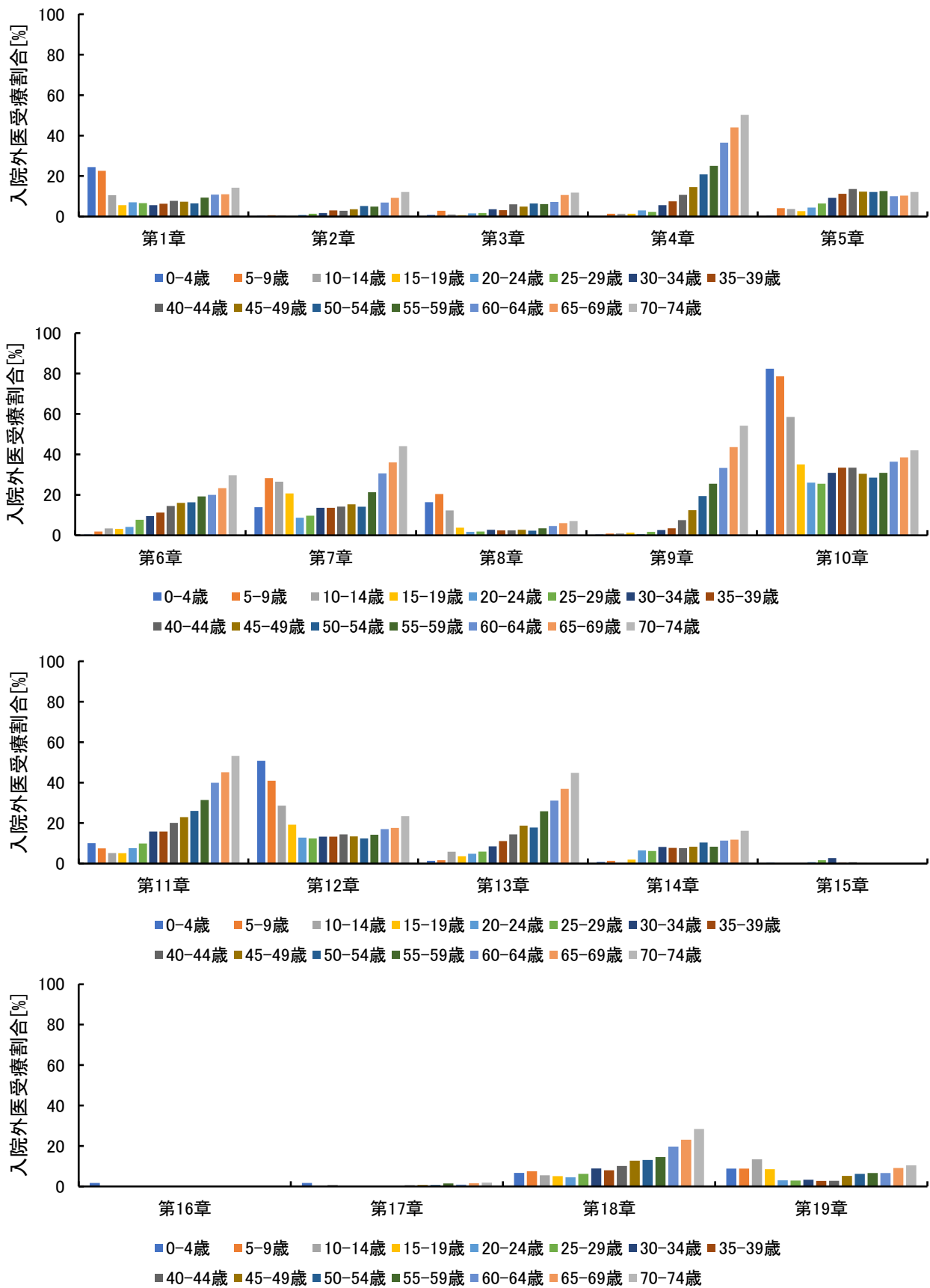


図 4-8 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

第 5 章 国保医療費の上位疾患の構造

1. 国保医療費の入院の上位疾患

図 5-1 に ICD10 の傷病名コードに記載される 13,175 傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院医療費の中央値を示した。図 5-1 より、全体の 1 位の血小板減少症の入院医療費は 600 万円以上であることがわかった。65-69 歳以下では濃オレンジ色(第 5 章)の精神及び行動の障害、オレンジ色(第 6 章)の神経系の疾患が多いことがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	血小板減少症	自閉症スペクトラム障害	嚥下障害	肝障害	脳出血	構語障害	構音障害	視床出血	乾皮症	高トリグリセリド血症	小脳梗塞
	6,389,360	5,871,620	5,022,710	4,771,770	4,590,775	4,516,120	4,211,130	4,140,635	4,107,660	3,991,790	3,991,790
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
30-34歳	不眠症	急性気管支炎	子宮内感染症	急性上気道炎	末梢神経障害	腰痛症	糖尿病	鉄欠乏性貧血	痔核	－	
	1,491,720	604,310	604,310	445,530	436,870	427,490	124,800	119,930	5,540		
	1位	2位	3位	4位	5位						
35-39歳	皮脂欠乏症	統合失調症	てんかん	慢性胃炎	躁うつ病	うつ病	不安神経症	神経症	末梢神経障害	高血圧症	湿疹
	4,203,970	3,571,680	3,325,590	2,129,905	1,604,320	1,604,320	1,604,320	1,604,320	1,604,320	1,604,320	1,604,320
	1位	2位	3位	4位	5位	6位		8位	9位	10位	
40-44歳	腰痛症	統合失調症	躁うつ病	鉄欠乏性貧血	不眠症	不安神経症	神経症	－	－	－	
	4,159,860	3,207,295	2,254,730	1,169,515	181,630	63,810	63,810				
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
45-49歳	てんかん	脂質異常症	2型糖尿病	薬剤性パーキンソン症候群	胃潰瘍	統合失調症	アトピー性皮膚炎	腰痛症	脱水症	不眠症	
	5,833,690	4,831,440	4,606,620	4,487,935	3,277,365	3,046,270	1,948,110	1,749,580	1,551,050	1,373,340	
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
50-54歳	薬剤性パーキンソン症候群	統合失調症	急性気管支炎	不眠症	急性上気道炎	腰痛症	急性咽頭喉頭炎	－	－	－	
	3,475,460	3,287,740	3,100,020	2,359,120	1,872,450	1,103,730	424,690				
	1位		3位	4位		6位	7位				
55-59歳	高脂血症	不安神経症	不眠症	慢性気管支炎	腰痛症	てんかん	統合失調症	逆流性食道炎	肝機能障害	胆のう結石症	
	2,392,700	2,392,700	2,349,840	2,085,575	2,085,575	2,054,605	1,821,310	1,821,310	1,821,310	1,821,310	
	1位	2位	3位		5位	6位	7位	8位	9位	10位	
60-64歳	急性循環不全	慢性腸炎	統合失調症	薬剤性パーキンソン症候群	細菌性肺炎	てんかん	急性腸炎	骨粗鬆症	癌性疼痛	－	
	7,619,310	4,329,690	3,741,905	3,741,905	1,722,880	1,565,820	1,557,140	1,422,720	1,420,360		
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
65-69歳	嚥下障害	消化管出血	薬剤性パーキンソン症候群	睡眠時無呼吸症候群	腎結石症	くも膜下出血後遺症	神経症	心房細動	高次脳機能障害	アルツハイマー型認知症	
	5,022,710	4,379,970	3,930,460	3,314,335	3,307,315	3,232,620	3,119,380	3,065,080	3,018,615	2,745,560	
	1位	2位	3位	4位	5位	6位		8位	9位	10位	
70-74歳	血小板減少症	意識障害	胆のう結石症	脳出血	嚥下障害	MRSA感染症	気管支肺炎	構音障害	神経因性膀胱	小脳梗塞	
	10,053,690	5,632,655	5,159,400	5,083,425	4,924,430	4,831,890	4,831,890	4,211,130	4,147,470	3,991,790	

図 5-1 入院医療費(中央値)に関する上位 10 疾患

2. 国保医療費の入院外の上位疾患

図 5-2, 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 13,175 傷病名を対象に, 入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を示した。図 5-2 より, 全体の 1 位の透析困難症の入院外医療費は 400 万円以上であり, 1 位から 3 位までが 400 万円以上の疾病であることがわかった。40 歳未満では, 濃オレンジ色(第 5 章)の精神及び行動の障害, オレンジ色(第 6 章)の神経系の疾患, 黄緑色(第 13 章)の筋骨格系及び結合組織の疾患が多いことがわかった。図 5-3 より, 40 歳以降では黄色(第 4 章)の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 紫色(第 9 章)の循環器系の疾患, 薄紫色(第 14 章)の腎尿路生殖器系の疾患が多いことがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	透析困難症	高リン血症	形質細胞腫	腎性貧血	カルニチン欠乏症	重症感染症	癌性腹膜炎	急性腎不全	クローン病	高カリウム血症
	4,909,645	4,546,280	4,203,040	3,615,970	3,268,890	2,805,930	2,214,640	1,951,090	1,932,610	1,705,160
0-4歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	
	脱水症	気管支喘息重症発作	滲出性中耳炎	呼吸不全	急性中耳炎	RSウイルス感染症	肺炎	腸炎	急性鼻咽頭炎	アデノウイルス感染症
	153,550	149,410	132,945	131,845	118,250	115,790	112,240	111,950	99,990	99,900
5-9歳	1位	2位			5位		7位	8位	9位	10位
	咽頭扁桃炎	言語発達遅滞	急性霰粒腫	肝機能障害	神経症	自閉症スペクトラム障害	足関節捻挫	鉄欠乏性貧血	外耳湿疹	脱水症
	171,400	149,640	149,640	149,640	145,490	145,490	125,530	122,000	109,420	108,665
10-14歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	広汎性発達障害	骨折	急性化膿性中耳炎	てんかん	肝機能障害	糖尿病	外耳湿疹	挫傷	靱帯損傷	起立性調節障害
	142,870	126,800	120,465	109,730	109,080	100,870	94,460	89,645	89,290	85,010
15-19歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	睡眠障害	起立性調節障害	胃潰瘍	月経困難症	頸椎捻挫	子宮内膜症	靱帯損傷	不眠症	肝機能障害	ざ瘡
	116,290	109,625	76,745	72,280	70,275	66,850	62,750	59,210	59,190	58,615
20-24歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	創傷感染症	浮腫	月経痛	神経障害性疼痛	副鼻腔炎	不安障害	急性呼吸不全	難治性逆流性食道炎	肝機能障害	統合失調症
	100,600	96,070	93,700	90,650	90,540	87,255	85,600	84,140	83,975	80,150
25-29歳	1位	2位	3位	4位		6位	7位	8位	9位	10位
	統合失調症	うつ状態	躁うつ病	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	頸椎症	慢性副鼻腔炎	糖尿病	クラミジア頸管炎	不安神経症	創傷感染症
	170,500	152,795	151,875	130,450	130,450	100,080	99,050	97,950	94,860	94,390
30-34歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	呼吸不全	潰瘍性大腸炎	末梢神経障害性疼痛	慢性気管支炎	関節リウマチ	滑膜ひだ障害	てんかん	自律神経発作	間質性肺炎
	729,530	336,040	230,240	211,320	196,370	191,190	187,600	181,620	176,260	170,510
35-39歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位		8位	9位	10位
	2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	乳癌	骨粗鬆症	高コレステロール血症	自閉症スペクトラム障害	睡眠時無呼吸症候群	腰椎症	変形性膝関節症	硝子体混濁	パニック障害
	256,120	233,670	217,080	213,030	211,680	193,260	193,260	182,835	178,040	174,910

図 5-2 入院外医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(全体・0-4 歳～35-39 歳)

下段は医療費(中央値)[円]

	1位		3位	4位	5位	6位	7位			10位
40-44歳	高カリウム血症	腎性貧血	ネフローゼ症候群	うつ血性心不全	角皮症	呼吸不全	内頸動脈狭窄症	慢性肝炎	変形性関節症	脱水症
	4,093,550	4,093,550	2,805,930	1,981,110	1,376,580	616,580	608,650	608,650	608,650	452,315
45-49歳	1位		3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	高リン血症	透析困難症	腎性貧血	高カリウム血症	下肢静止不能症候群	腰椎捻挫	慢性腎不全	高眼圧症	坐骨神経痛	慢性肝炎
	4,588,680	4,588,680	3,928,785	3,268,890	617,330	573,380	548,320	463,130	372,940	362,135
50-54歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	高リン血症	腎性貧血	うつ血性心不全	播種性血管内凝固	深部静脈血栓症	慢性腸炎	2型糖尿病性網膜症	睡眠時無呼吸症候群	2型糖尿病性末梢神経障害	B型慢性肝炎
	4,623,525	3,370,035	352,400	327,600	284,810	266,145	263,390	236,300	226,810	226,040
55-59歳	1位	2位			5位	6位	7位	8位	9位	10位
	高リン血症	高カリウム血症	慢性腎不全	腎性貧血	カルニチン欠乏症	癌性疼痛	不安定狭心症	直腸癌	胃びらん	閉塞性動脈硬化症
	4,643,130	4,544,620	4,544,620	4,544,620	2,372,045	1,711,075	1,526,490	1,481,600	521,930	380,430
60-64歳	1位	2位		4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	透析困難症	高リン血症	高カリウム血症	慢性動脈閉塞症	起立性低血圧症	腎性貧血	痙攣	慢性腎不全	糖尿病性末梢神経障害	角皮症
	4,463,680	4,349,440	4,349,440	4,111,300	4,072,535	3,243,845	2,244,800	1,624,110	1,550,930	1,059,390
65-69歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	透析困難症	高リン血症	急性腎不全	腎性貧血	高カリウム血症	白血球減少症	癌性疼痛	細菌性結膜炎	好中球減少症	糖尿病性末梢神経障害
	5,543,180	5,123,505	3,757,970	3,690,950	1,167,740	976,040	807,610	570,450	528,070	471,580
70-74歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	透析困難症	高リン血症	腎性貧血	アレルギー	2型糖尿病・腎合併症あり	転移性肺腫瘍	高カルシウム血症	乾癬性関節炎	急性腎後性腎不全	骨転移癌
	4,546,280	4,519,845	3,552,470	1,694,610	1,550,270	1,412,520	1,170,030	1,130,295	1,086,550	873,495

図 5-3 入院外医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(40-44 歳～70-74 歳)

第6章 注目疾患別に見た診療の状況

1. 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費

表 6-1 に慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-1 より，入院医療費は糖尿病は 65-59 歳，高血圧は 55-59 歳，脂質異常症は 45-49 歳で大きく増加したことがわかった。

表 6-2 に慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院受療割合を示した。表 6-2 より，糖尿病の入院受療割合は 30-34 歳で増加し，60-64 歳で大きく増加したことがわかった。高血圧，脂質異常症の入院受療割合は 35-39 歳から大きく割合が増加していることがわかった。心疾患の入院受療割合は 55-59 歳から割合が増加し，それに伴い，入院医療費も増加したことが確認できた。腎不全の入院受療割合は 60-64 歳から増加したことがわかった。

表 6-1 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0	124,800	1,604,320	0	904,490	0	401,340	300,375	788,660	606,600
高血圧	0	0	0	1,604,320	0	502,935	0	924,680	200,400	769,680	850,590
脂質異常症	0	0	0	354,890	181,630	2,290,035	0	1,666,325	159,135	804,330	590,620
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	2,124,580	253,990	860,575	606,600
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	346,370	2,700,840	606,600
脳出血 脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	924,680	269,745	2,457,830	2,328,960
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	223,360	353,510	606,600
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0	851,260	448,550	740,295
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,283,215
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,142,755
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 6-2 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院医療費の受療割合

	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0.3	0	0.5	0.4	0	0.6	0.2	0.6	1.6	1.2	1.8
高血圧	0.1	0.1	0	0.4	0.2	0.6	0.2	1.2	2.2	2.1	2.8
脂質異常症	0	0.1	0	0.5	0.4	0.8	0.2	0.7	1.2	1.3	1.5
心疾患	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.5	0.6	0.6	0.8
脳血管疾患	0	0	0.2	0.1	0	0.1	0	0.1	0.4	0.4	0.8
脳出血 脳梗塞	0	0	0	0.1	0	0	0	0.5	0.4	0.5	0.7
アテローム粥状硬化症 （下肢閉塞性動脈硬化症を含む）	0	0	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0.7	0.2	0.5
腎不全	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0.6	0.2	0.5
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0.1	0	0.1	0.2	0	0.2
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0	0

2. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費

表 6-3 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-3 より、糖尿病の入院外医療費は 10-14 歳から発生し、25-29 歳で大きく増加した。さらに 55-59 歳で大きく増加したことがわかった。高血圧の入院外医療費は 25-29 歳から発生し、年齢とともに増加した。脂質異常症の入院外医療費は 10-14 歳から発生し、30-34 歳で大きく増加したことがわかった。

表 6-4、図 6-1、6-2、6-3 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外受療割合を示した。表 6-4、図 6-1、6-2、6-3 より、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、腎・糖尿病合併症の入院外受療割合は 40-44 歳から急激に割合が増加したことがわかった。慢性疾患の入院外受療割合は 40-44 歳で 5%を超え、70 歳代では 25.7~47.7%となっている。それに伴い、55-59 歳から心疾患、脳血管疾患の入院外受療割合が増加していることが確認できた。

表 6-3 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	72,680	0	62,010	101,595	94,970	84,550
高血圧	0	0	0	0	0	91,510	53,720	56,520
脂質異常症	0	0	61,230	0	66,705	35,115	96,800	122,620
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	95,920
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	0
脳出血_脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	89,910	111,790	104,435	120,610	114,950	122,490	141,475
高血圧	77,880	92,415	72,790	78,475	88,460	96,635	109,890
脂質異常症	74,865	93,035	75,930	94,580	88,460	100,760	115,520
心疾患	110,555	138,100	102,880	101,570	123,620	118,730	140,940
脳血管疾患	104,150	85,610	96,785	120,720	107,035	106,610	128,330
脳出血_脳梗塞	25,865	75,835	48,850	124,780	89,230	90,500	115,120
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	352,040	385,150	352,400	301,605	100,240	114,400	168,635
腎不全	280,915	548,320	161,380	4,544,620	2,000,250	323,930	471,485
2型糖尿病性腎症	608,650	296,630	99,545	220,380	114,950	131,390	193,460
2型糖尿病性眼科疾患	0	205,960	263,390	190,940	104,740	243,270	156,180
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	226,810	0	0	276,300	186,870

表 6-4 慢性疾患，心・脳血管疾患，腎疾患に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	1	0.4	1.2	0.9	2.3	2.6
高血圧	0	0.6	0.5	0	0.1	0.7	0.8	2.8
脂質異常症	0	0.3	0.8	0	0.6	0.6	2	2.8
心疾患	0	0.3	0	0	0.1	0.3	0.2	0.7
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3
脳出血_脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0.1
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.1
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	0.3
2型糖尿病性腎症	0	0	0	0	0	0	0.2	0
2型糖尿病性眼科疾患	0	0	0	0	0	0.1	0	0.1
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	5.2	6.1	9.7	12.6	17.4	20.4	25.7
高血圧	5.5	10.4	17	22.9	28.8	38.1	47.7
脂質異常症	6	8.9	14.6	17.8	27.4	34.4	38.8
心疾患	1	1.7	2.6	4.7	5.5	8.4	10.9
脳血管疾患	0.6	0.8	1.4	1.7	3.5	5.7	7.8
脳出血_脳梗塞	0.5	1.3	0.9	2.9	2.7	3.6	5.5
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0.6	0.5	0.5	1.9	3.9	5.1	7
腎不全	0.7	0.8	0.9	1	1.4	1.5	2
2型糖尿病性腎症	0.6	0.5	0.6	1.6	1.9	2.1	2.3
2型糖尿病性眼科疾患	0.2	0.6	0.5	0.3	0.6	0.7	0.8
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.3	0.3

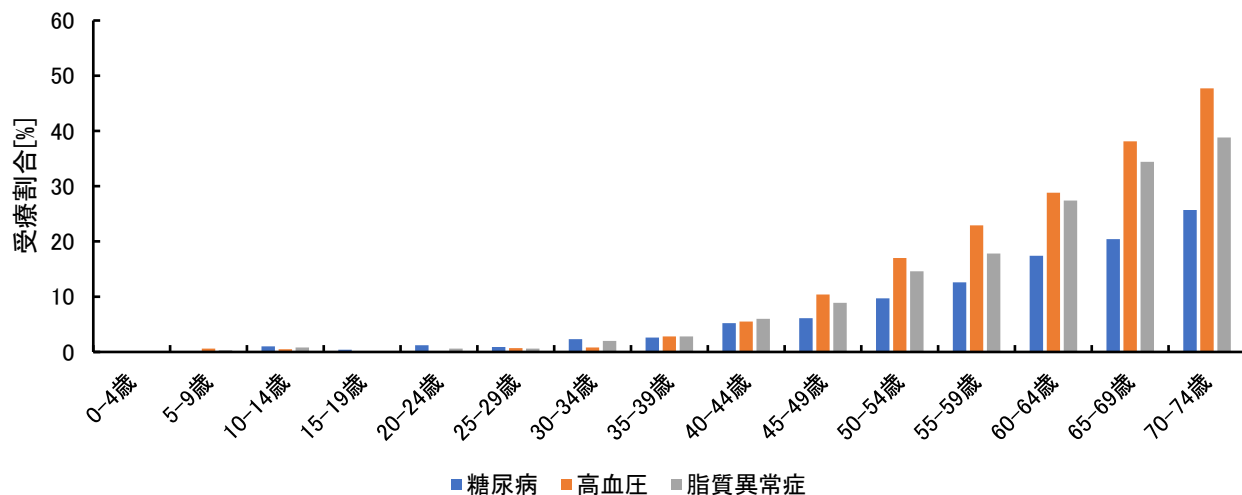


図 6-1 慢性疾患に対する入院外医療費の受療割合

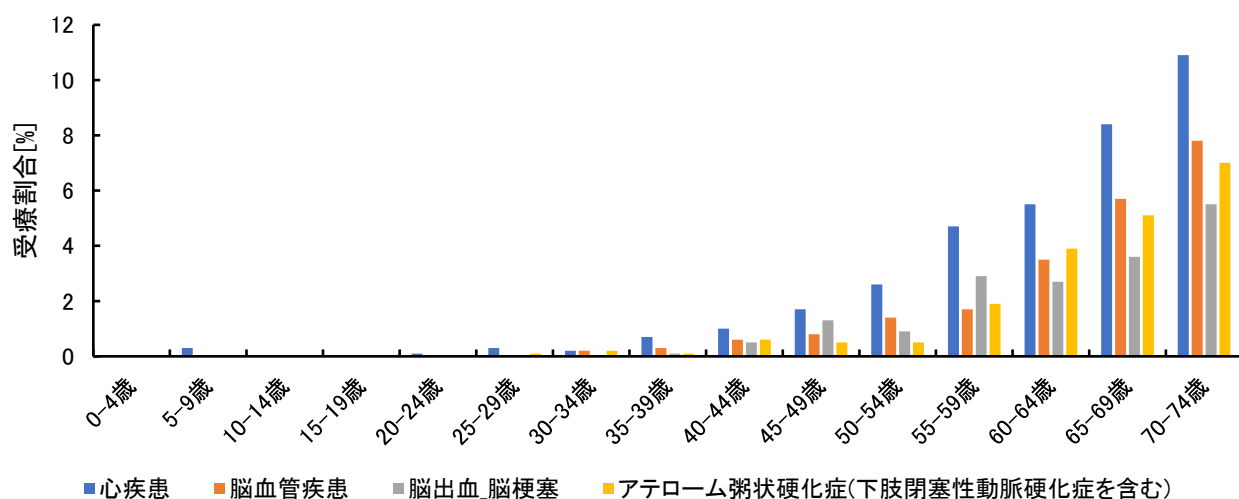


図 6-2 心・脳血管疾患に対する入院外医療費の受療割合

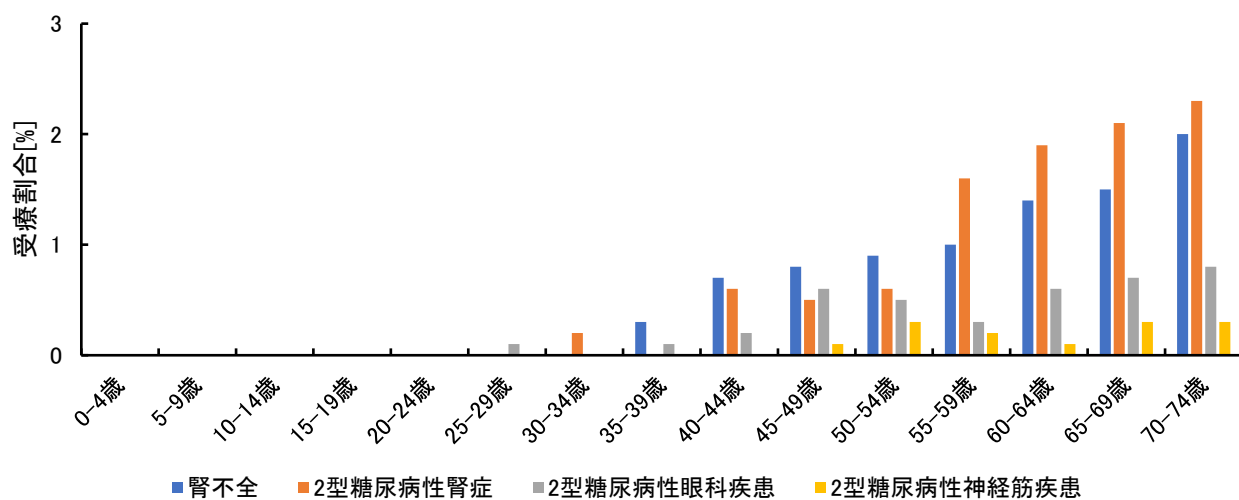


図 6-3 腎疾患に対する入院外医療費の受療割合

3. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費

表 6-5 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-5 より、入院医療費は睡眠障害は 30-34 歳で大きく増加し、うつ病エピソード、躁病エピソードは 35-39 歳から発生していることがわかった。睡眠障害の入院医療費は 50-54 歳で 200 万円を超えていることがわかった。

表 6-6 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院受療割合を示した。表 6-6 より、うつ病エピソード、睡眠障害の入院受療割合は 20-24 歳から発生し、55-59 歳で大きく増加したことがわかった。アルツハイマー病は 30-34 歳から発生しているが、60-64 歳で大きく割合が増加したことがわかった。

表 6-5 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0	0	0	1,604,320	0	1,948,110	0	1,759,370	875,130	1,552,660	1,244,140
躁病エピソード	0	0	0	1,604,320	2,254,730	0	0	0	0	0	0
睡眠障害	0	272,375	1,048,015	1,146,225	181,630	1,373,340	2,359,120	2,085,575	1,302,675	1,552,660	882,550
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,745,560	1,451,270

表 6-6 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0.3	0.1	0.3	0.4	0.1	0.3	0.2	0.8	0.3	0.2	0.5
躁病エピソード	0	0.3	0	0.7	0.4	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1
睡眠障害	0.3	0.6	0.6	1.1	0.6	0.7	0.4	1.6	1.6	0.9	1.7
アルツハイマー病	0	0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.5	0.4	0.7

4. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費

表 6-7 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-7 より、うつ病エピソードの入院外医療費は 15-19 歳から発生し、年齢とともに増加していることがわかった。睡眠障害の入院外医療費は年齢とともに増加し、40-44 歳から大きく増加したことがわかった。アルツハイマー病の入院外医療費は 60-64 歳から発生していることがわかった。

表 6-8、図 6-4 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外受療割合を示した。表 6-8、図 6-4 より、うつ病エピソードの入院外受療割合は 10-14 歳から発生し、30-34 歳では 5%を超え、55-59 歳までの働き世代では 5%以上を維持していることがわかった。睡眠障害は 25-29 歳から大きく増加し、70-74 歳の受療割合は 19.6%まで増加した。

表 6-7 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	51,745	37,270	84,065	75,330	79,150
躁病エピソード	0	0	0	0	0	170,500	98,200	130,000
睡眠障害	0	0	55,045	75,940	46,075	73,235	78,940	94,215
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	101,855	89,345	87,930	154,720	135,170	131,370	155,110
躁病エピソード	188,370	121,270	142,520	155,670	114,060	208,135	181,370
睡眠障害	126,640	89,970	121,575	141,480	123,840	130,990	142,105
アルツハイマー病	0	0	0	0	331,300	134,405	162,300

表 6-8 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0.5	1.3	2.9	4.6	5.2	5.5
躁病エピソード	0	0	0	0	0.3	1.6	2.4	2.3
睡眠障害	0.4	0.6	1.6	1.9	3.3	6	7.4	9.2
アルツハイマー病	0	0	0.3	0	0	0.1	1.1	1.1

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	7.2	5.3	5.2	5.4	4.5	3.7	3.9
躁病エピソード	2.7	1.6	1.8	0.8	0.8	0.6	0.3
睡眠障害	10.5	12.7	11.8	12.7	12.7	14.1	19.6
アルツハイマー病	2.2	2.5	3.3	6.1	7.2	9.5	12.5

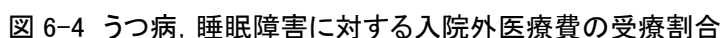


表 6-10 に膝関節症，股関節症，骨粗しょう症（骨折の有無）に対する入院受療割合を示した。表 6-10 より，膝関節症の入院受療割合は，60-64 歳で受療割合が大きく増加し，それに伴い，入院医療費も大きく増加したことがわかった。骨粗しょう症の入院受療割合は 20-29 歳から発生しているが，大きく増加するのは 65-69 歳からであることがわかった。

単位[円]

[illegible]

单位[%]

[illegible]

6. 関節疾患に対する入院外医療費

表 6-11 に膝関節症，股関節症，骨粗しょう症（骨折の有無）に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-11 より，膝関節症の入院外医療費は 30-34 歳，股関節症の入院外医療費は 50-54 歳から発生し，年齢とともに増加することがわかった。

表 6-12，図 6-5 に膝関節症，股関節症，骨粗しょう症（骨折の有無）に対する入院外受療割合を示した。表 6-12，図 6-5 より，膝関節症，骨粗しょう症の入院外受療割合は 40-44 歳，股関節症の入院外受療割合は 50-54 歳から大きく増加することがわかった。入院外受療割合の増加に伴い，入院外医療費も増加したことがわかった。

表 6-11 膝関節症，股関節症，骨粗しょう症に対する入院外医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	76,220	182,835
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	0	0	0	217,080
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	82,295	69,140	115,035	122,580	146,775	133,455	165,085
股関節症	0	0	101,950	144,370	107,055	148,510	181,870
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	331,470	150,360	149,940	155,070	130,495	140,300	160,100
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	195,570	104,180

表 6-12 膝関節症，股関節症，骨粗しょう症に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0.3	0	0	0.1	1.1	1.1
股関節症	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0.2	0.1	0.3	0.3	0.5
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	2.2	2.5	3.3	6.1	7.2	9.5	12.5
股関節症	0	0.2	1.1	1.4	1.4	2.2	2.7
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.8	1	1.4	4.4	7.4	11.9	16.8
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0.2	0	0	0.1	0.1

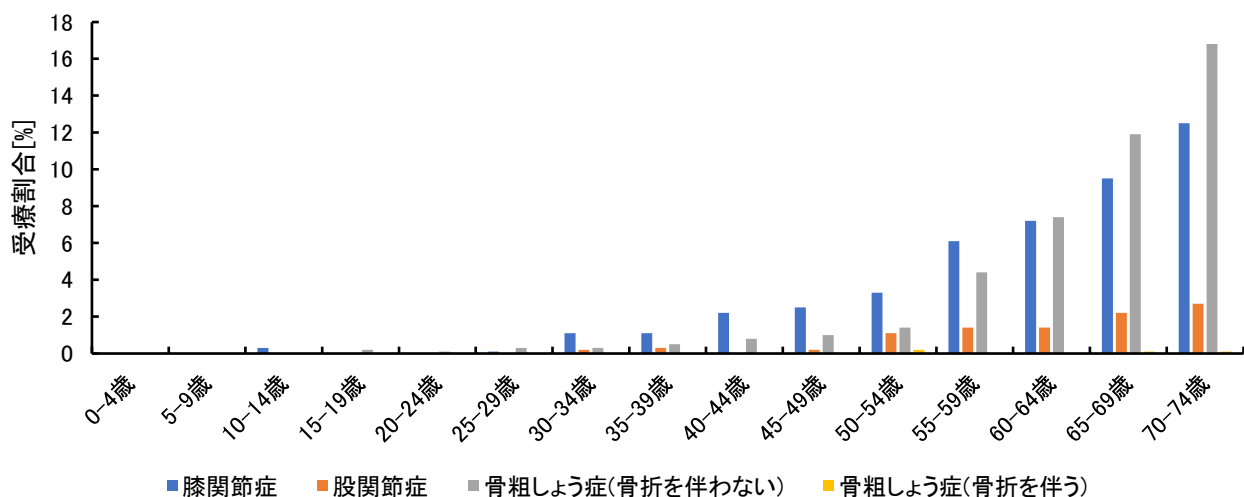


図 6-5 膝関節症，股関節症，骨粗しょう症に対する入院外医療費の受療割合

7. 風邪，急性上気道感染症，肺炎に対する入院医療費

表 6-13 に風邪，急性上気道感染症，肺炎に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-14 に風邪，急性上気道感染症，肺炎に対する入院受療割合を示した。表 6-13，6-14 より，急性上気道感染症は 20-24 歳から入院医療費，入院受療割合が発生している。肺炎の入院受療割合は 65-69 歳から大きく増加し，入院医療費は 100 万円以上であることがわかった。

表 6-13 風邪，急性上気道感染症，肺炎に対する入院医療費の中央値（人数 2 以下は採用しない）

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0	0	0	0	0	0	1,045,040	3,383,745	1,367,375	1,540,480
急性上気道感染症	231,490	87,505	427,490	590,625	433,880	399,120	1,131,550	382,430	253,990	777,960	762,095
肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	735,020	1,015,335	977,020

表 6-14 風邪，急性上気道感染症，肺炎に対する入院医療費の受療割合

	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.5	0.4	0.2	0.2
急性上気道感染症	0.6	1.1	1.1	0.5	1	0.7	0.6	1	1.5	1.1	1.5
肺炎	0	0.3	0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.6

8. 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費

表 6-15, 図 6-6 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-15, 図 6-6 より, 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎の入院外医療費は 15-19 歳, 20-24 歳を最小とした U 字型の曲線であり, 乳幼児期と高齢期の入院外医療費が高い構造となっていることがわかった。肺炎の入院外医療費は 50-54 歳から 10 万円を超えており, 入院医療費も高いことから肺炎予防に取り組む重要性が示された。

表 6-16, 図 6-7 に風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外受療割合を示した。図 6-7 より, 風邪と急性上気道感染症の受療割合の曲線はほぼ同じであることがわかった。急性上気道感染症は乳幼児期の 0-4 歳で 86.6%, 5-10 歳で 79.2%, 10-14 歳で 56.4%, 高齢期の 65-69 歳, 70-74 歳では 30% 近くの割合であり, 非常に高い割合で受診していることが確認できた。

表 6-15 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	64,795	47,215	49,215	18,910	14,860	50,580	31,655	46,420
急性上気道感染症	47,420	42,520	35,650	20,210	20,010	27,875	32,685	30,430
肺炎	97,895	89,185	65,460	0	27,660	58,840	32,900	94,320

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	53,740	88,170	70,335	115,330	105,985	114,450	121,815
急性上気道感染症	42,780	53,430	64,675	66,580	71,000	97,380	122,440
肺炎	84,285	93,795	105,830	159,340	139,830	172,290	188,700

表 6-16 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	13.4	6.9	5.8	2.4	2.5	3.6	4.2	4.6
急性上気道感染症	86.6	79.2	56.4	35	27.5	26.6	30.6	29.1
肺炎	3.4	3.1	2.6	0.4	0.4	0.9	1.2	1.5

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	4.5	3.9	4.5	3.9	4.6	5.1	6.2
急性上気道感染症	30	24.6	23.6	23	26.3	29	29.5
肺炎	0.7	1.1	0.9	1.4	1	1.7	2

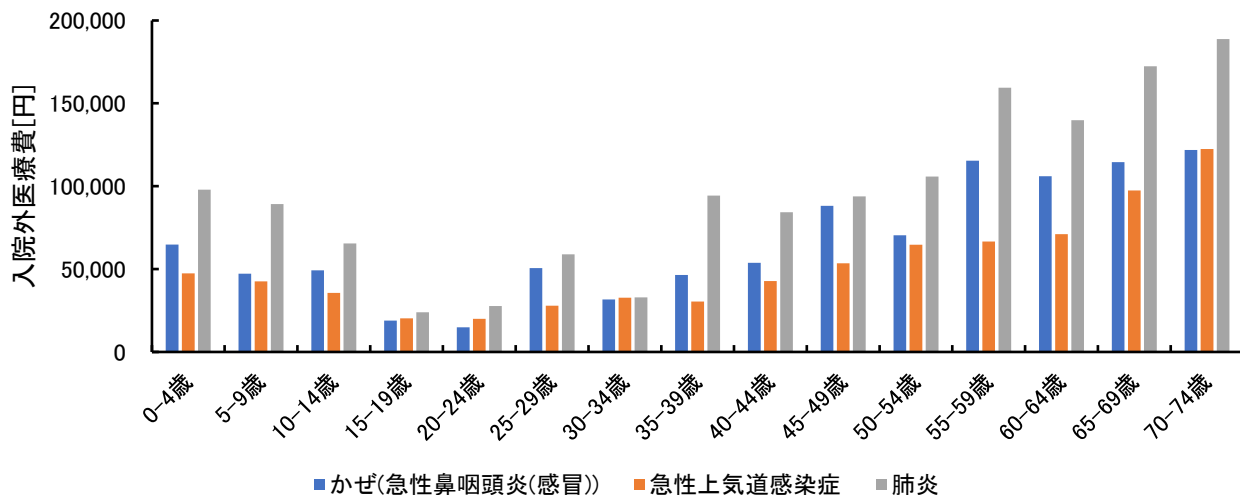


図 6-6 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の中央値

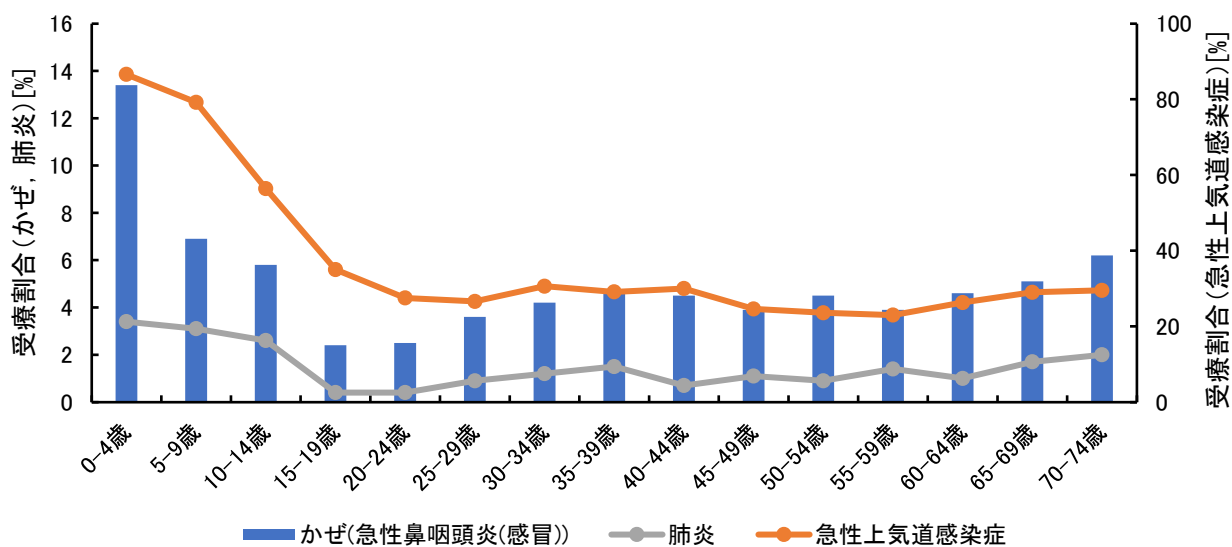


図 6-7 風邪, 急性上気道感染症, 肺炎に対する入院外医療費の受療割合

9. 新生物に対する入院・入院外医療費

表 6-17 に新生物に対する入院医療費, 表 6-18 に新生物に対する入院外医療費の中央値を示した. 患者数が 2 以下の場合には採用しなかった. 表 6-18 より, 入院外医療費は乳房の悪性新生物は 25-29 歳, 女性生殖器の悪性新生物は 40-44 歳, 結腸の悪性新生物は 45-49 歳から発生しており, それ以外の悪性新生物は主に 65-69 歳から発生していることがわかった.

表 6-19 に新生物に対する入院受療割合, 表 6-20 に新生物に対する入院外受療割合を示した. 表 6-20 より, 少数ではあるが入院外受療割合は非ホジキンリンパ腫は 15-19 歳, 女性生殖器の悪性新生物は 20-24 歳から発生していることがわかった.

表 6-17 新生物に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	832,850	2,464,730
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	797,010
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	781,040	827,190
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,489,915	901,800
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	983,825
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 6-18 新生物に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	28,890	113,320	233,670
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	377,000	122,450	132,990	173,605
結腸の悪性新生物	0	300,380	182,160	158,865	184,615	161,270	162,910
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	124,080	298,810
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	558,795	248,240	154,580
乳房の悪性新生物	195,125	102,965	86,785	227,160	167,010	145,190	202,470
女性生殖器の悪性新生物	224,690	0	117,290	205,440	186,065	187,090	162,465
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	192,995	135,600	120,920
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	313,250	239,535

表 6-19 新生物に対する入院医療費の受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.1	0.2
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.1
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1

表 6-20 新生物に対する入院外医療費の受療割合

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.4	0.5	0.4
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0.1	0.2	0.1
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0	0.2	0	0	0	0

単位[円]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0.3	1	0.7	1.3
結腸の悪性新生物	0.1	0.3	0.5	0.5	0.7	1.1	1.6
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.3
気管支及び肺の悪性新生物	0.1	0	0	0.1	0.4	0.5	1
乳房の悪性新生物	0.5	0.8	1.2	1	1.5	1.8	1.7
女性生殖器の悪性新生物	0.4	0.1	0.5	0.6	0.9	0.5	0.6
骨髄性白血病	0	0	0.2	0.2	0	0	0
脾の悪性新生物	0	0	0	0	0.4	0.1	0.1
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	0	0	0.2	0	0.2	0.3	0.4

表 6-21 に注目する精神および行動の障害に対する入院医療費、表 6-22 に注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-21 より、入院医療費は気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 30-34 歳から発生し、100 万円以上であることがわかった。統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害の入院医療費は 35-39 歳から発生し、300 万円以上であることがわかった。

表 6-21 注目する精神および行動の障害に対する入院医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

表 6-22 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の中央値(人数 2 以下は採用しない)

單位[円]

表 6-23 注目する精神および行動の障害に対する入院医療費の受療割合[illegible]

表 6-24 注目する精神および行動の障害に対する入院外医療費の受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0.3	0	0.2	0.1
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0	0.5	0.4	1.5	2	3.3	6.3
気分[感情]障害	0	0	0.5	1.5	3.2	5.2	6.8	6.6
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.4	2.5	2.9	2.4	4.1	4.9	8.3	7.3
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0.3	0	0.1	0	0.2	0.3

単位[%]

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.2	0.2	0.1	0.3	0.4	0.2	0.1
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	6.2	6.1	6.3	4.4	2.9	1.8	1.8
気分[感情]障害	8.7	6.1	6.3	5.9	5.2	3.9	4.1
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	9.2	8.1	7.5	9.4	7	8.4	9.7
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.4	0	0.1	0.3	0	0.2	0.1

第7章 地区別の医療費の構造分析

1. 令和元年度の性別・地区別一人当たり医療費と受療割合

表 7-1 に性別、地区別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療率を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点(医療費)、0日(診療日数)、0件(レセプト件数)の人を含めずに解析した。医療費、レセプト件数の合計を受療人数(医療機関を受療した人数)で除した値である平均値を示した。受療割合は、入院および入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し、100を乗じたものである。表 7-1 より、入院外に着目すると、受療割合は女性ではすべての地区で 80%を超えており、レセプト件数も 8 件以上であるため、1～2 ヶ月に 1 回は医療機関に受診していることが推定できる。

図 7-1 に男性、図 7-2 に女性の地区別の一人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図 7-1、図 7-2 より、男性は館地区、上宗岡地区が高く、女性はすべての地区であまり差がないことがわかった。

図 7-3 に性別、地区別の一人当たりのレセプト件数を示した。図 7-3 より、レセプト件数は男女ともに館地区が多いことがわかった。

表 7-1 地区別の一人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合

		総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外		
				診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]
男性	上宗岡	279,391	7.9	60.8	1,840,390	3.2	12.8	198,082	70.5
	中宗岡	235,158	7.6	93.4	1,963,293	3.1	11.7	150,670	71.2
	下宗岡	205,939	7.9	68.6	1,436,072	2.1	13.0	162,370	69.1
	本町	200,208	8.5	47.0	1,138,374	2.9	13.1	154,774	71.9
	幸町	166,915	8.3	79.5	1,900,668	2.3	12.2	106,895	71.5
	館	269,628	10.8	55.2	1,449,557	2.6	17.3	226,437	85.2
	柏町	223,465	8.5	60.2	1,216,056	3.0	13.5	174,173	71.4
女性	上宗岡	183,284	8.8	54.1	1,677,397	3.8	13.4	105,782	82.2
	中宗岡	167,685	8.7	30.1	905,999	4.2	12.8	122,592	84.0
	下宗岡	140,613	8.3	62.8	930,834	2.6	12.6	111,442	81.9
	本町	151,532	9.5	68.8	1,898,053	1.7	14.8	112,620	81.8
	幸町	190,692	9.5	60.4	1,795,572	3.2	14.5	123,426	83.4
	館	171,204	10.9	68.0	1,449,181	2.0	15.6	140,123	90.8
	柏町	195,852	9.3	105.5	2,035,244	2.7	13.9	129,289	80.6

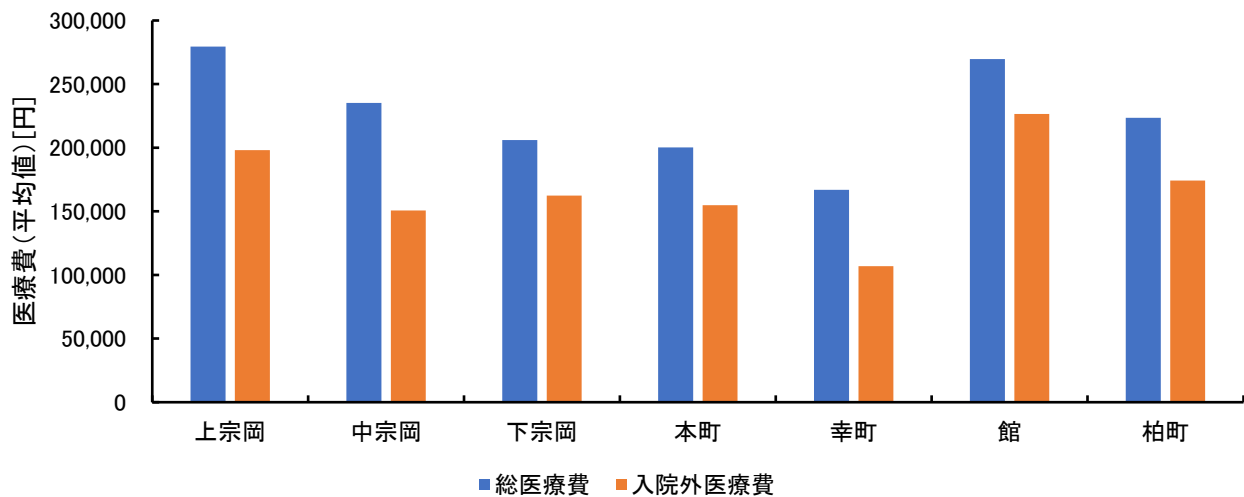


図 7-1 男性の一人当たりの地区別総医療費, 入院外医療費

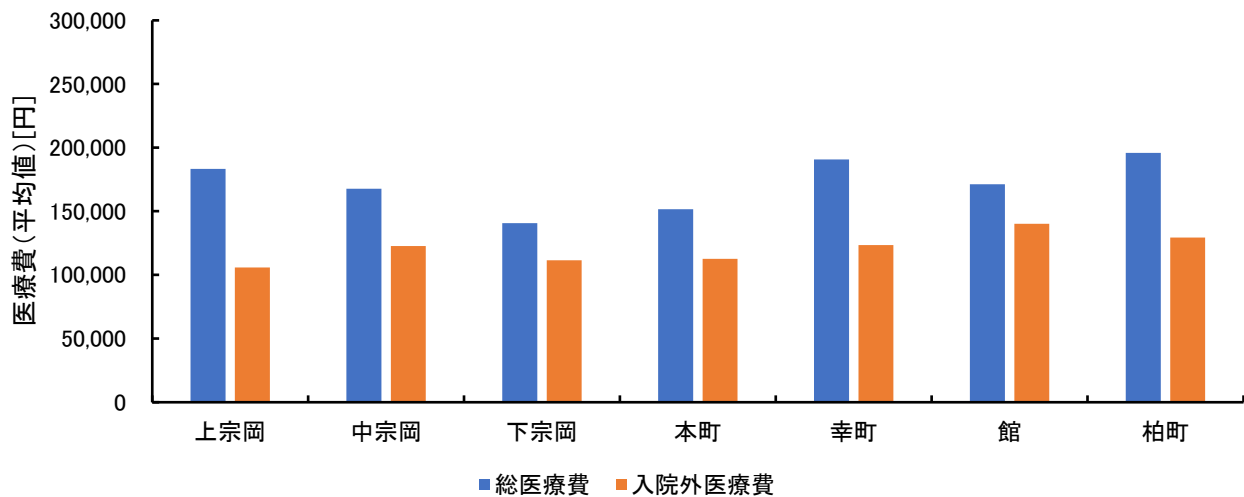


図 7-2 女性の一人当たりの地区別総医療費, 入院外医療費

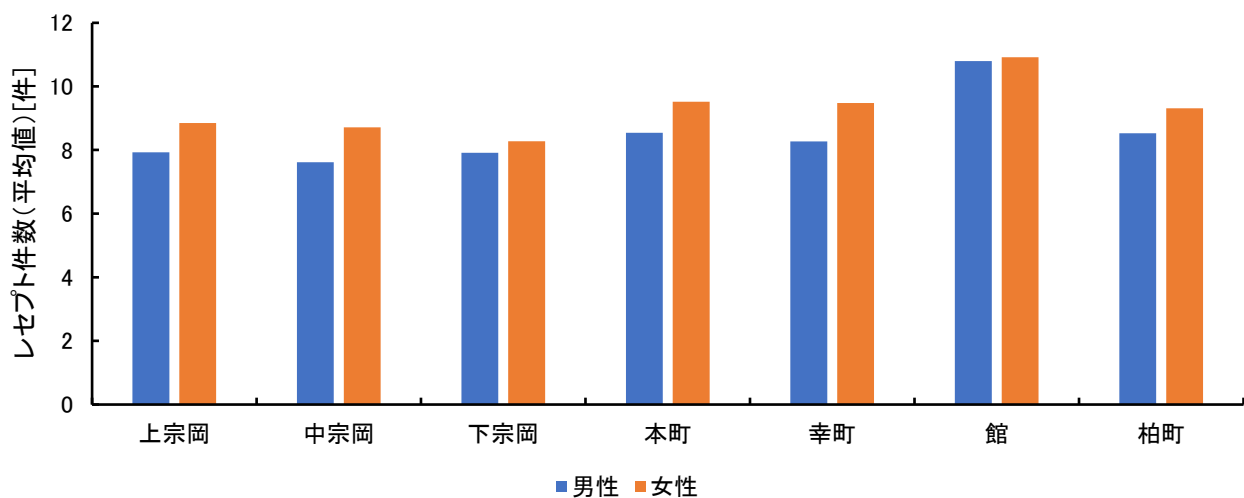


図 7-3 一人当たりの地区別レセプト件数

第 8 章 地区別の国保医療費の疾病構造

1. 疾病分類別の地区別総医療費と受療割合（入院，入院外を含む全体の医療費）

表 8-1 に疾病分類別の地区別総医療費合計，表 8-2 に総医療費合計を患者数で除した一人当たりの医療費（平均医療費），表 8-3 に受療割合を示した。1 年間にそれぞれの分類に対し，1 回でも病名が記載された場合に，患者としてカウントした。そのため，患者数は頭数であり，繰り返し受診したところによる延べ人数ではない。総医療費合計（入院と入院外）はそれぞれの患者の医療費の合計である。（例として，糖尿病と胃炎の診断を受けると，第 4 章と第 11 章にそれぞれ患者数としてカウントされる）

図 8-1 に地区別の総医療費合計，図 8-2 に地区別の一人当たりの医療費，図 8-3 に地区別の受療割合を示した。図 8-3 より，受療割合に着目すると，第 10 章の呼吸器，第 11 章の消化器，次いで第 4 章の内分泌，栄養及び代謝疾患，第 9 章の循環器のボリュームが大きく，中でも館地区の割合が高いことがわかった。

図 8-2 より，一人当たりの医療費に着目すると，第 16 章の周産期に発生した産じょく，第 3 章の血液及び造血器並びに免疫機構の障害（鉄欠乏性貧血などの貧血が含まれる）の医療費が大きいことがわかった。

表 8-1 疾病分類別の地区別総医療費合計

傷病分類名	単位[円]						
	上宗岡	中宗岡	下宗岡	本町	幸町	館	柏町
第1章 感染症及び寄生虫症	47,794,274	65,870,923	20,556,553	76,148,263	61,580,859	60,803,732	67,764,257
第2章 新生物	50,981,985	44,813,557	11,572,410	40,889,944	39,709,810	63,500,762	52,269,327
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47,097,670	56,460,888	27,207,400	67,691,719	63,320,210	61,963,104	64,905,291
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	106,897,056	131,670,430	50,502,433	135,738,907	112,994,364	138,724,341	130,606,329
第5章 精神及び行動の障害	60,968,833	55,031,869	25,606,998	81,389,758	49,934,849	61,632,043	91,059,998
第6章 神経系の疾患	97,193,497	102,145,407	41,958,572	126,408,885	101,147,745	104,440,579	121,429,147
第7章 眼及び付属器の疾患	101,098,644	100,767,640	37,826,662	117,964,624	94,992,564	119,524,291	89,941,677
第8章 耳及び乳様突起の疾患	12,248,441	14,933,993	6,297,078	24,468,579	16,413,514	26,949,764	13,915,747
第9章 循環器系の疾患	127,183,341	112,798,940	51,024,423	131,258,815	98,204,029	139,228,793	123,148,565
第10章 呼吸器系の疾患	101,961,030	118,787,701	44,261,838	146,551,082	114,605,069	143,966,832	137,740,241
第11章 消化器系の疾患	144,774,319	146,867,532	52,583,219	175,042,675	134,046,040	169,571,259	164,262,786
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	80,415,797	94,174,758	33,640,263	96,671,104	92,065,991	103,649,101	107,280,845
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	85,624,756	139,050,181	52,386,871	147,061,548	116,298,195	138,778,704	133,031,597
第14章 腎尿路性器系の疾患	54,806,814	71,649,739	25,733,691	70,995,293	60,762,561	55,062,201	71,100,151
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1,539,238	3,091,190	108,890	530,850	2,563,840	85,810	1,648,210
第16章 周産期に発生した病態	519,125	0	0	0	651,660	0	7,497
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	3,532,927	6,488,439	992,195	6,678,366	7,388,191	3,941,054	13,431,960
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	99,029,433	87,838,345	26,098,084	112,924,047	97,406,419	98,690,964	108,106,954
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	50,464,243	52,403,559	24,470,561	56,778,451	44,080,619	38,459,606	39,281,972

表 8-2 疾病分類別の地区別一人当たりの総医療費

単位[円]

傷病分類名	上宗岡	中宗岡	下宗岡	本町	幸町	館	柏町
第1章 感染症及び寄生虫症	248,929	264,542	180,321	216,947	315,799	221,911	253,799
第2章 新生物	369,435	327,106	152,269	211,865	364,310	298,126	346,154
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	367,951	359,623	323,898	350,734	565,359	221,297	345,241
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	200,557	202,570	152,116	157,653	222,430	165,148	202,805
第5章 精神及び行動の障害	336,844	241,368	224,623	244,414	250,929	198,174	354,319
第6章 神経系の疾患	287,555	246,134	193,357	207,909	280,966	189,204	281,086
第7章 眼及び付属器の疾患	195,928	166,009	128,662	136,375	184,810	134,751	150,909
第8章 耳及び乳様突起の疾患	112,371	105,915	131,189	147,401	186,517	184,587	116,939
第9章 循環器系の疾患	230,405	175,973	147,897	157,574	200,826	168,151	183,257
第10章 呼吸器系の疾患	149,284	138,771	106,913	116,403	157,641	144,255	147,473
第11章 消化器系の疾患	232,383	196,347	144,857	174,345	220,834	170,939	204,816
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	215,592	209,277	148,851	159,523	251,546	232,397	244,933
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	176,911	233,698	168,447	181,557	241,283	176,115	216,312
第14章 腎尿路性器系の疾患	293,085	292,448	240,502	215,791	314,832	178,773	277,735
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	128,270	237,784	108,890	132,713	512,768	85,810	137,351
第16章 周産期に発生した病態	173,042	0	0	0	651,660	0	7,497
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	160,588	223,739	70,871	190,810	410,455	140,752	433,289
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	285,387	228,746	140,312	214,685	291,636	192,006	256,786
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	304,001	301,170	239,907	237,567	288,109	238,880	247,056

表 8-3 疾病分類別の地区別受療割合

単位[%]

傷病分類名	上宗岡	中宗岡	下宗岡	本町	幸町	館	柏町
第1章 感染症及び寄生虫症	9.2	10	8.8	10.7	10.5	12.7	10.8
第2章 新生物	6.6	5.5	5.9	5.9	5.9	9.9	6.1
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6.1	6.3	6.5	5.9	6	13	7.6
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	25.5	26.1	25.6	26.3	27.4	39.1	25.9
第5章 精神及び行動の障害	8.7	9.2	8.8	10.2	10.7	14.5	10.4
第6章 神経系の疾患	16.2	16.7	16.7	18.6	19.4	25.7	17.4
第7章 眼及び付属器の疾患	24.7	24.4	22.6	26.4	27.7	41.2	24
第8章 耳及び乳様突起の疾患	5.2	5.7	3.7	5.1	4.7	6.8	4.8
第9章 循環器系の疾患	26.4	25.7	26.6	25.4	26.3	38.5	27.1
第10章 呼吸器系の疾患	32.7	34.4	31.9	38.5	39.2	46.4	37.6
第11章 消化器系の疾患	29.8	30	27.9	30.7	32.7	46.1	32.3
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	17.9	18.1	17.4	18.5	19.7	20.7	17.6
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	23.2	23.9	23.9	24.7	26	36.6	24.8
第14章 腎尿路性器系の疾患	9	9.8	8.2	10	10.4	14.3	10.3
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.6	0.5	0.1	0.1	0.3	0	0.5
第16章 周産期に発生した病態	0.1	0	0	0	0.1	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.1	1.2	1.1	1.1	1	1.3	1.2
第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16.6	15.4	14.3	16.1	18	23.9	17
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	7.9	7	7.9	7.3	8.2	7.5	6.4

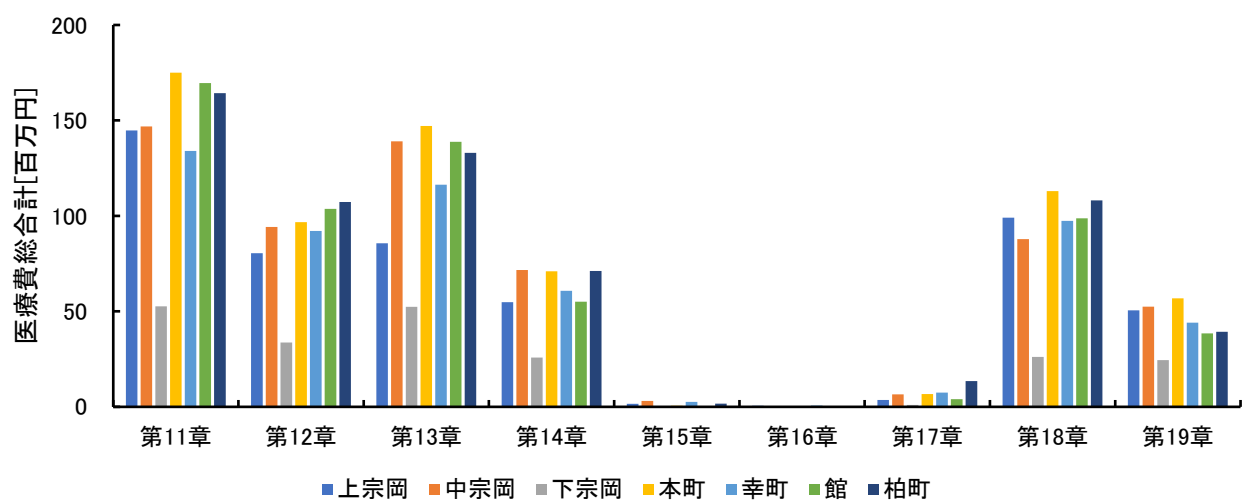
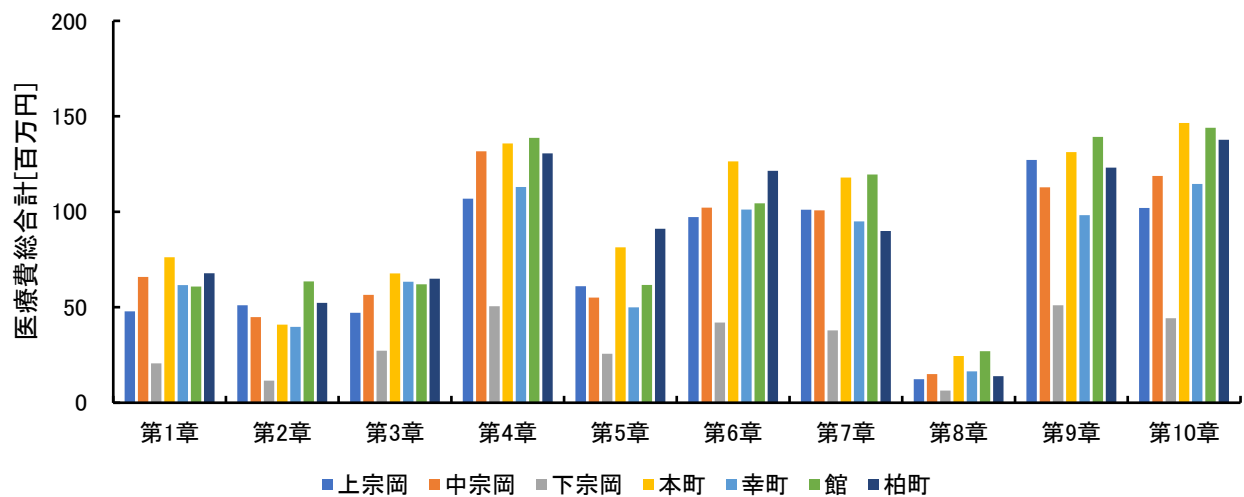


図 8-1 疾病分類別の地区別総医療費合計

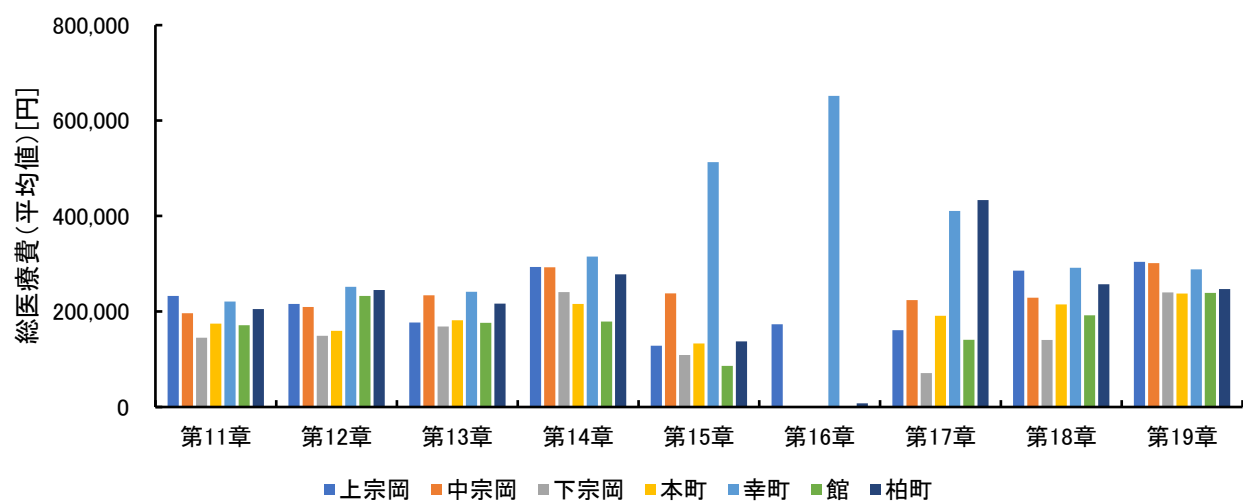
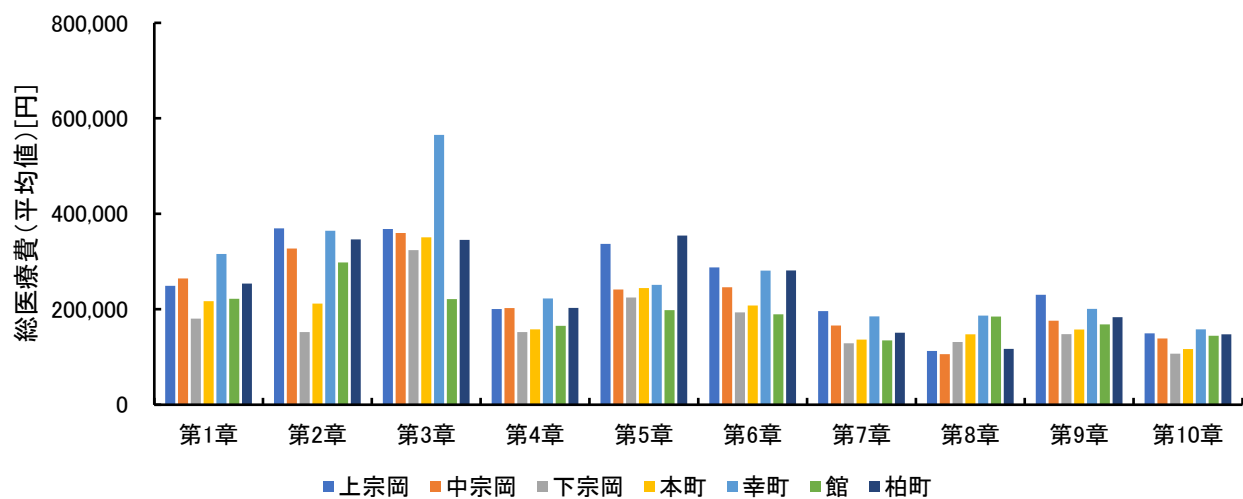


図 8-2 疾病分類別の地区別一人当たりの総医療費

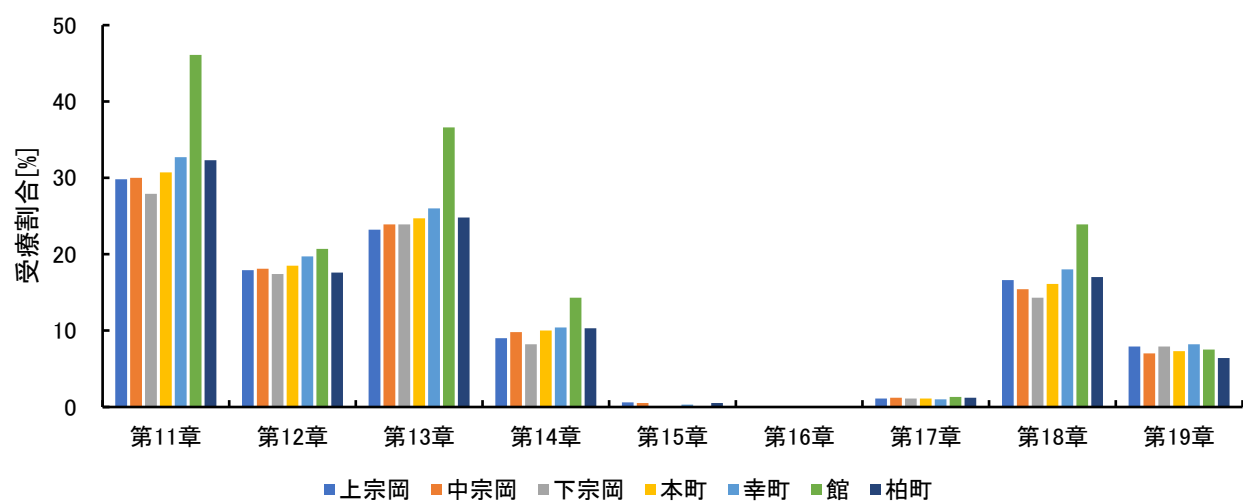
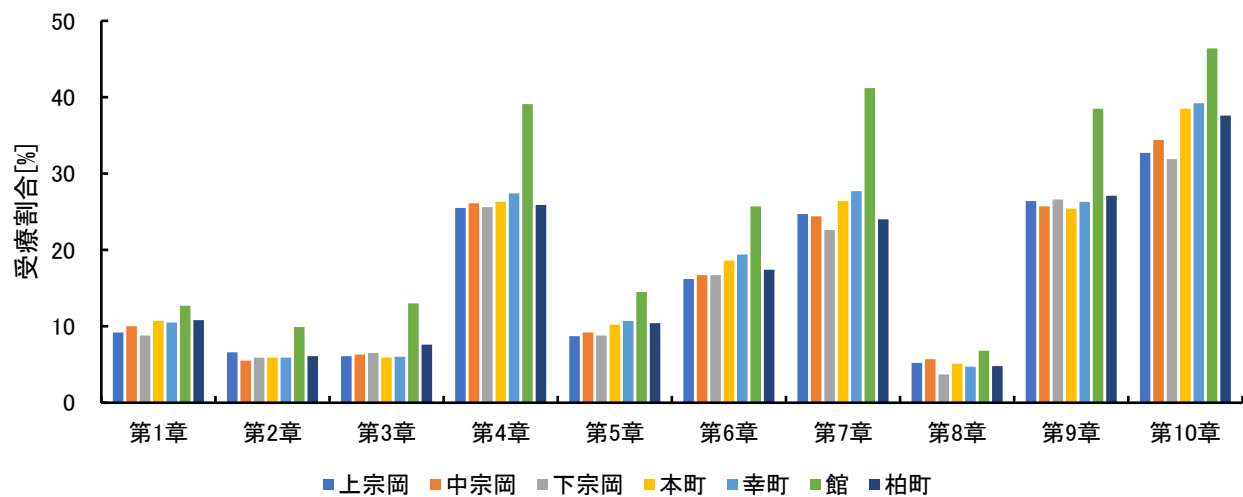


図 8-3 疾病分類別の地区別受療割合

第 9 章 特定検診検査の受診状況

1. 特定検診の受診状況

40～74 歳の市民を対象に特定健康診査（以下、特定検診）を実施している。令和元年度の受診件数は 4,539 件であった。

2. 平成 30 年度と令和元年度の保健指導レベルの関係

表 9-1、図 9-1 に平成 30 年度の保健指導レベルに対する令和元年度の保健指導レベルへの影響を示した。表 9-1、図 9-1 より、平成 30 年度、令和元年度の両年において積極的支援と判定されたのは男性で 61%、女性で 41.2%であった。平成 30 年度に積極的支援に該当し、令和元年度に動機づけ支援に該当したのは男性で 16.9%、女性で 35.3%、なしに該当したのは男性で 22.1%、女性で 23.5%であり、男性は 39.0%、女性は 58.8%が改善していることがわかった。

平成 30 年度に動機づけ支援に該当し、令和元年度も動機づけ支援に該当したのは男性で 63.7%、女性で 59.8%、令和元年度に積極的支援に該当したのは男性で 5.5%、女性で 6.3%、なしに該当したのは男性で 30.8%、女性で 33.9%であった。

積極的支援からなしへの改善は男女ともに約 23%、動機づけ支援からのなしへの改善は約 30%であることがわかった。平成 30 年度、令和元年度の両年においてなしの割合は男女ともに 90%を超えていることがわかった。

表 9-1 平成 30 年度と令和元年度の保健指導レベル判定の結果

		令和元年度判定			
		積極的支援	動機づけ支援	なし	
平成30年度 判定	男性	積極的支援	47(61%)	13(16.9%)	17(22.1%)
		動機づけ支援	11(5.5%)	128(63.7%)	62(30.8%)
		なし	11(0.9%)	53(4.6%)	1094(94.5%)
	女性	積極的支援	7(41.2%)	6(35.3%)	4(23.5%)
		動機づけ支援	7(6.3%)	67(59.8%)	38(33.9%)
		なし	4(0.2%)	41(2.1%)	1882(97.7%)

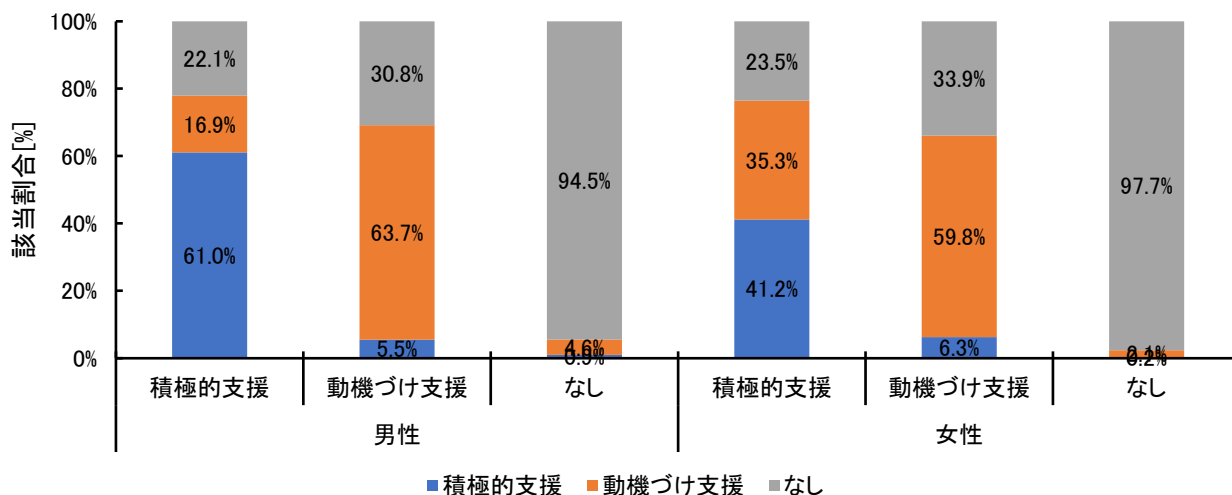


図 9-1 平成 30 年度の保健指導レベルに対する令和元年度の保健指導レベル判定の結果

3. メタボリックシンドローム(以下、メタボ)の状況

図 9-2 に令和元年度のメタボ判定結果の割合を示した。図 9-2 より、令和元年度の特定検診受診者におけるメタボ判定結果の状況は、男性のメタボ基準該当者は 32.0%、予備群は 18.0%であり、合わせて 50%が該当していた。女性のメタボ基準該当者は 9.7%、予備群は 5.6%であり、合わせて 15.3%が該当していた。

表 9-2 に平成 30 年度と令和元年度のメタボ判定のクロス表を示した。表 9-2 より、平成 30 年度にメタボに該当(基準該当)し、令和元年度に予備群、あるいは非該当(正常群)に該当したのは男性で 26.2%、女性で 30.6%であった。平成 30 年度に予備群に該当し、令和元年度にメタボ群に該当したのは男性で 25.5%、女性で 20.4%、非該当(正常群)に該当したのは男性で 19.8%、女性で 29.6%であった。平成 30 年度に非該当(正常群)に該当し、令和元年度も非該当(正常群)に該当したのは男性で 84.7%、女性で 95%、予備群に該当したのは男性で 7.2%、女性で 2.2%、基準該当に該当したのは男性で 8%、女性で 2.8%であった。

図 9-2、表 9-2 より、男性に比べ女性はメタボの割合は低く、メタボに悪化する割合も低いことがわかった。一方、非該当(正常群)を維持している割合は高いことがわかった。

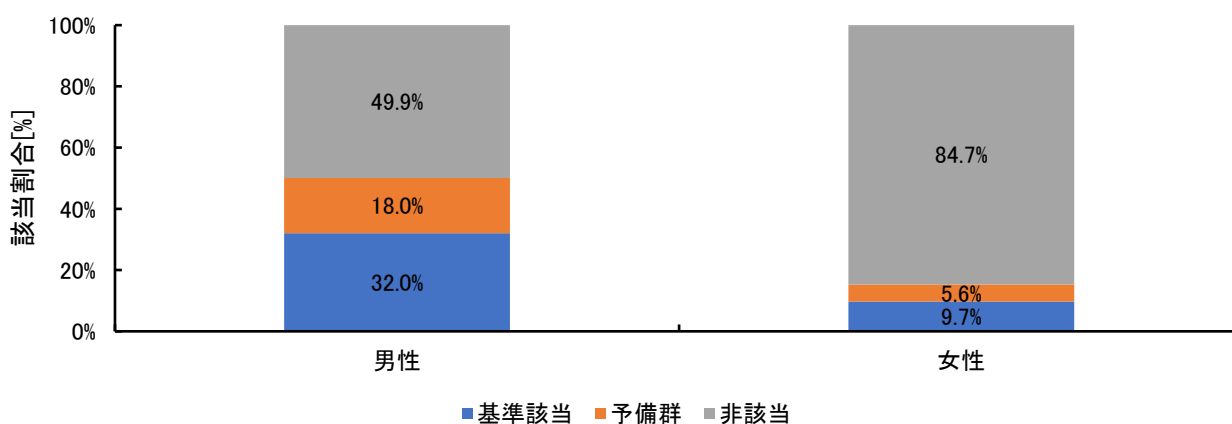


図 9-2 令和元年度のメタボ判定の結果

表 9-2 平成 30 年度と令和元年度のメタボ判定の結果

			令和元年度判定		
			基準該当	予備群	非該当
平成30年度判定	男性	基準該当	315(73.8%)	53(12.4%)	59(13.8%)
		予備群	67(25.5%)	144(54.8%)	52(19.8%)
		非該当	60(8%)	54(7.2%)	632(84.7%)
	女性	基準該当	120(69.4%)	14(8.1%)	39(22.5%)
		予備群	22(20.4%)	54(50%)	32(29.6%)
		非該当	49(2.8%)	39(2.2%)	1687(95%)

4. 平成 30 年度の特定検診受診の有無による令和元年度のメタボ判定結果

表 9-3, 図 9-3 に平成 30 年度の特定検診の受診の有無による令和元年度のメタボ判定の結果を示した。表 9-3, 図 9-3 より, 平成 30 年度の未受診者の方がやや基準該当, 予備群の割合が高いことがわかった。

表 9-3 平成 30 年度の特定検診受診の有無と令和元年度のメタボ判定の結果

			令和元年度判定		
			基準該当	予備群	非該当
平成30年度判定	男性	受診	442(30.8%)	251(17.5%)	743(51.7%)
		未受診	161(36.1%)	88(19.7%)	197(44.2%)
	女性	受診	191(9.3%)	107(5.2%)	1758(85.5%)
		未受診	67(11.1%)	41(6.8%)	493(82.0%)

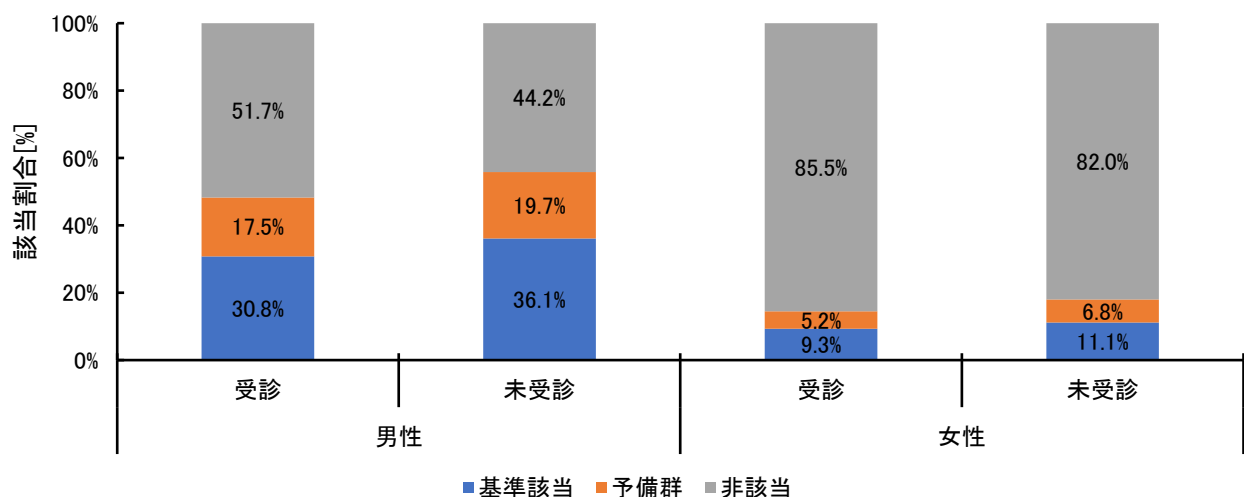


図 9-3 平成 30 年度の特定検診受診の有無に対する令和元年度のメタボ判定の結果

5. BMI の状況

図 9-4 に令和元年度の BMI 判定結果の割合を示した。BMI の判定はやせ型群(18.5 未満)、普通群(18.5-24.9)、肥満型(25 以上)と定義した。

図 9-4 より、令和元年度の特定検診受診者における BMI 判定結果の状況は、男性の肥満該当者は 30.1%、やせ型は 3.3%であった。女性の肥満該当者は 18.5%、やせ型は 13.5%であった。

表 9-4 に令和元年度の BMI 判定と平成 30 年度からの BMI の増減判定のクロス表を示した。BMI が 25 以上の肥満型の対象者は脂肪を減少させ、BMI を低下させることが求められる。一方で、18.5 未満のやせ型の対象者は筋肉量を増加させ、BMI も増加させることが重要となる。

表 9-4 より、令和元年度の BMI 判定がやせ型に該当し、平成 30 年度から BMI が増加したのは男性で 35.1%、女性で 17.2%、減少したのは男性で 64.9%、女性で 82.8%であった。令和元年度の BMI 判定が肥満型に該当し、平成 30 年度から BMI が増加したのは男性で 70.81%、女性で 71.2%、減少したのは男性で 25%、女性で 13.9%であった。

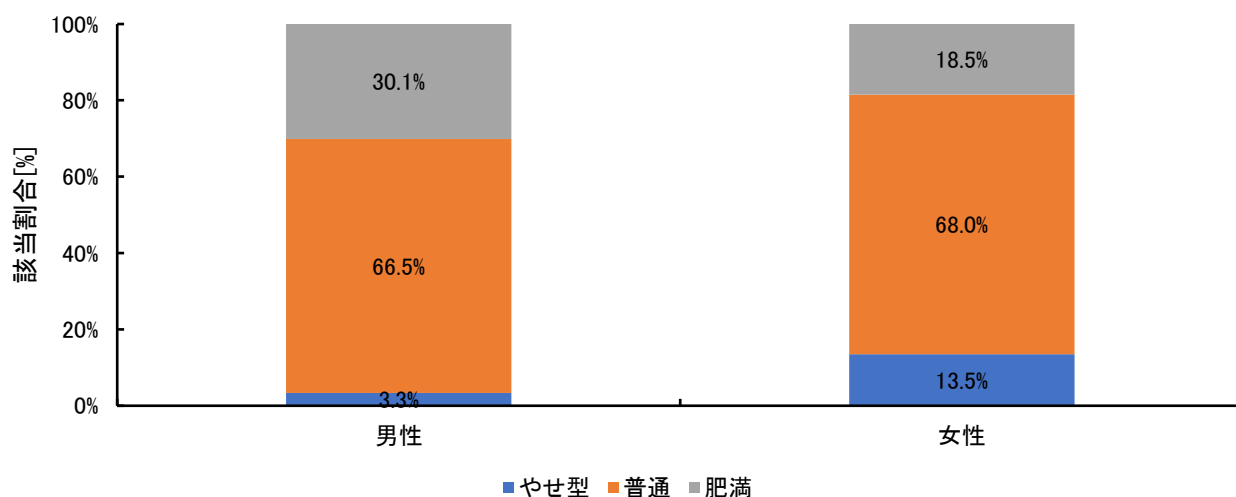


図 9-4 令和元年度の BMI 判定の結果

表 9-4 令和元年度の BMI 判定結果と BMI 増減の結果

		令和元年度判定		
		増加	変化なし	減少
令和元年度 判定	やせ型	40(35.1%)	0(0%)	74(64.9%)
	男性 普通	144(55.4%)	0(0%)	116(44.6%)
	肥満	1068(70.8%)	63(4.2%)	377(25%)
	やせ型	5(17.2%)	0(0%)	24(82.8%)
	女性 普通	36(22.4%)	0(0%)	125(77.6%)
	肥満	1766(71.6%)	358(14.5%)	343(13.9%)

6. 令和元年度の保健指導レベルによる令和元年度の BMI 判定結果

表 9-5、図 9-5 に令和元年度の保健指導レベルによる令和元年度の BMI 判定の結果を示した。表 9-3、図 9-2 より、令和元年度の保健指導レベルが積極的支援該当者は男女ともに令和元年度の BMI 判定が肥満型の割合が高いことがわかった。

表 9-5 令和元年度の保健指導レベルと令和元年度の BMI 判定の結果

		令和元年度判定		
		やせ型	普通	肥満
令和元年度 判定	積極的支援 男性	0(0%)	40(35.1%)	74(64.9%)
		0(0%)	144(55.4%)	116(44.6%)
		63(4.2%)	1068(70.8%)	377(25%)
	積極的支援 女性	0(0%)	5(17.2%)	24(82.8%)
		0(0%)	36(22.4%)	125(77.6%)
		358(14.5%)	1766(71.6%)	343(13.9%)

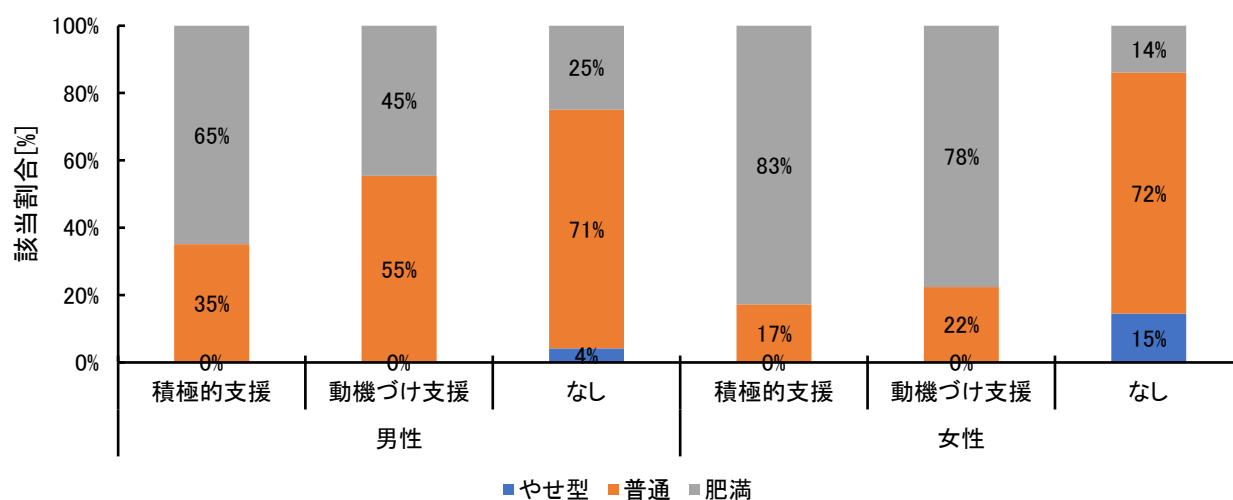


図 9-5 令和元年度の保健指導レベルに対する令和元年度の BMI 判定の結果

7. 血圧の状況

図 9-6 に令和元年度の血圧判定結果の割合を示した。血圧の判定は正常群(収縮期血圧<130mmHg かつ拡張期血圧<85), 正常高値群(収縮期血圧<140mmHgまたは拡張期血圧<100mmHg), I 度群(収縮期血圧<160mmHgまたは拡張期血圧<100mmHg), II 度群(収縮期血圧<180mmHgまたは拡張期血圧<110mmHg), III 度群(収縮期血圧>=180mmHgまたは拡張期血圧>=110mmHg)と定義した。

図 9-6 より, 令和元年度の正常群は男性で 42.8%, 女性で 51.1%, 正常高群は男性で 53.5%, 女性で 47.4%であった。血圧判定が I ~ III 度群は男女ともに 2%以下であった。

表 9-6 に令和元年度の血圧判定と平成 30 年度からの収縮期血圧の増減判定のクロス表を示した。表 9-6 より, 令和元年度の血圧判定が正常高値に該当し, 平成 30 年度から収縮期血圧が増加したのは男性で 57.5%, 女性で 58.9%, 減少したのは男性で 39.2%, 女性で 37.8%であった。

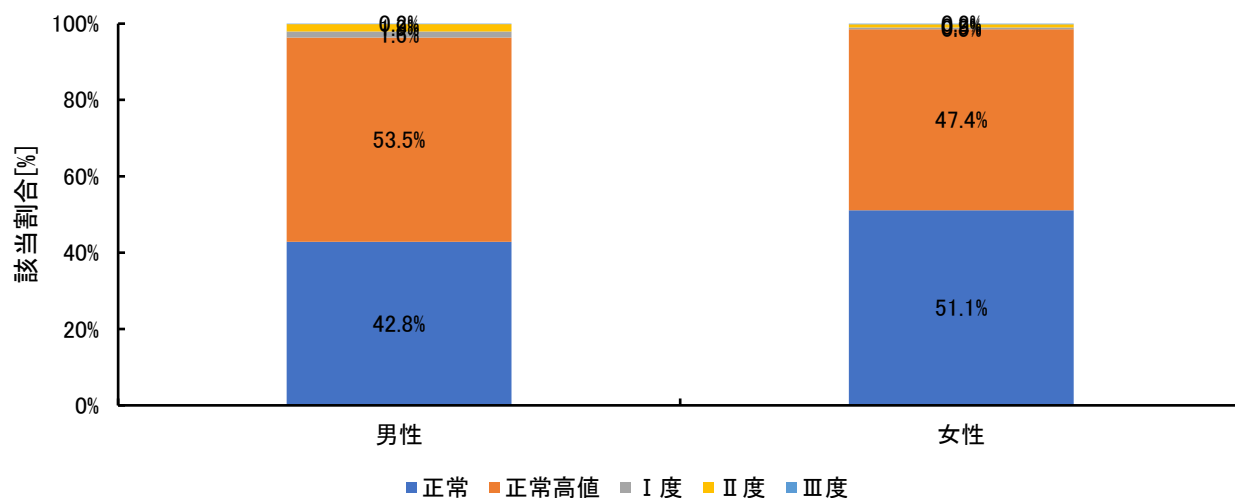


図 9-6 令和元年度の血圧判定の結果

表 9-6 令和元年度の血圧判定結果と収縮期血圧増減の結果

		令和元年度判定			
		増加	変化なし	減少	
令和元年度 判定	男性	正常	193(30.9%)	29(4.6%)	403(64.5%)
		正常高値	443(57.5%)	25(3.2%)	302(39.2%)
		I 度	9(50%)	0(0%)	9(50%)
		II 度	16(76.2%)	1(4.8%)	4(19%)
		III 度	2(100%)	0(0%)	0(0%)
	女性	正常	356(34.3%)	41(3.9%)	642(61.8%)
		正常高値	581(58.9%)	33(3.3%)	373(37.8%)
		I 度	4(57.1%)	0(0%)	3(42.9%)
		II 度	14(70%)	0(0%)	6(30%)
		III 度	3(100%)	0(0%)	0(0%)

8. 中性脂肪(トリグリセリド: TG)の状況

図 9-7 に令和元年度の中性脂肪(TG)判定結果の割合を示した。TG の判定は低中性脂肪血症群(29mg/dl 以下), 正常群(30-149mg/dl), 軽度高中性脂肪血症群(150-299mg/dl), 中等度高中性脂肪血症群(300-749mg/dl), 高度高中性脂肪血症群(750mg/dl 以上)と定義した。

図 9-7 より, 令和元年度の正常群は男性で 70.1%, 女性で 82.8%, 軽度高中性脂肪血症群は男性で 24.6%, 女性で 15.4%であった。TG 判定が中度～高度高中性脂肪血症群は男性で 5.3%, 女性で 1.5%であった。

表 9-7 に令和元年度の TG 判定と平成 30 年度からの TG の増減判定のクロス表を示した。表 9-7 より, 令和元年度の TG 判定が軽度高中性脂肪血症に該当し, 平成 30 年度から TG が増加したのは男性で 61.8%, 女性で 71.7%, 減少したのは男性で 37%, 女性で 27.8%であった。令和元年度の TG 判定が中度高中性脂肪血症に該当し, 平成 30 年度から TG が増加したのは男性で 82.5%, 女性で 88.5%, 減少したのは男性で 17.5%, 女性で 11.5%であった。

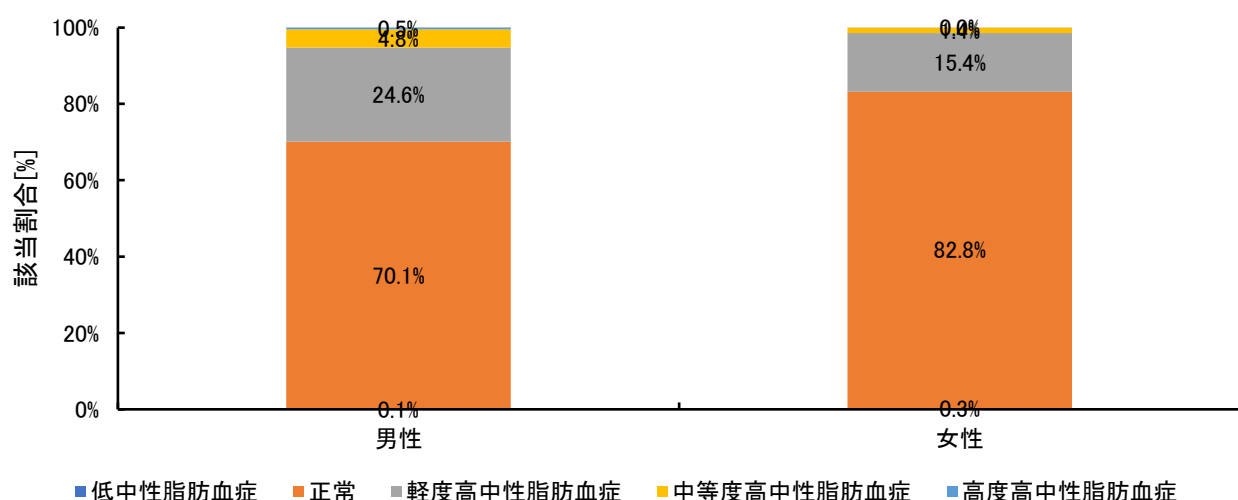


図 9-7 令和元年度の TG 判定の結果

表 9-7 令和元年度の TG 判定結果と TG 増減の結果

			令和元年度判定		
			増加	変化なし	減少
令和元年度 判定	男性	低中性脂肪血症	0(0%)	0(0%)	1(100%)
		正常	418(40.7%)	22(2.1%)	587(57.2%)
		軽度高中性脂肪血症	209(61.8%)	4(1.2%)	125(37%)
		中等度高中性脂肪血症	52(82.5%)	0(0%)	11(17.5%)
		高度高中性脂肪血症	7(100%)	0(0%)	0(0%)
	女性	低中性脂肪血症	0(0%)	0(0%)	7(100%)
		正常	768(44.9%)	33(1.9%)	911(53.2%)
		軽度高中性脂肪血症	223(71.7%)	3(1%)	85(27.3%)
		中等度高中性脂肪血症	23(88.5%)	0(0%)	3(11.5%)
		高度高中性脂肪血症	1014(49.3%)	36(1.8%)	1006(48.9%)

9. HbA1c の状況

図 9-8 に令和元年度の HbA1c 判定結果の割合を示した。HbA1c の判定は正常群(5.6%未満)、要注意群(5.6-5.9%)、糖尿病が否定できない群(6.0-6.4%)、糖尿病型群(6.5%以上)と定義した。

図 9-81 より、令和元年度の特定検診受診者における HbA1c 判定結果の状況は、男性の正常群は 42.0%、要注意群は 31.3%、糖尿病が否定できない群は 14.1%、糖尿病型群は 12.6%であった。女性の正常群は 44.0%、要注意群は 36.6%、糖尿病が否定できない群は 12.6%、糖尿病型群は 6.8%であった。

表 9-8 に平成 30 年度と令和元年度の HbA1c 判定のクロス表を示した。表 9-8 より、平成 30 年度、令和元年度の両年において正常群と判定されたのは男性で 30%、女性で 78.3%であった。糖尿病型群に該当し、令和元年度に要注意群、糖尿病が否定できない群に該当したのは男性で 24.1%、女性で 20.1%であり、男女ともに約 20%が改善傾向であることがわかった。

一方で、平成 30 年度、令和元年度の両年において糖尿病型群と判定されたのは男性で 75.9%、女性で 79.8%であった。

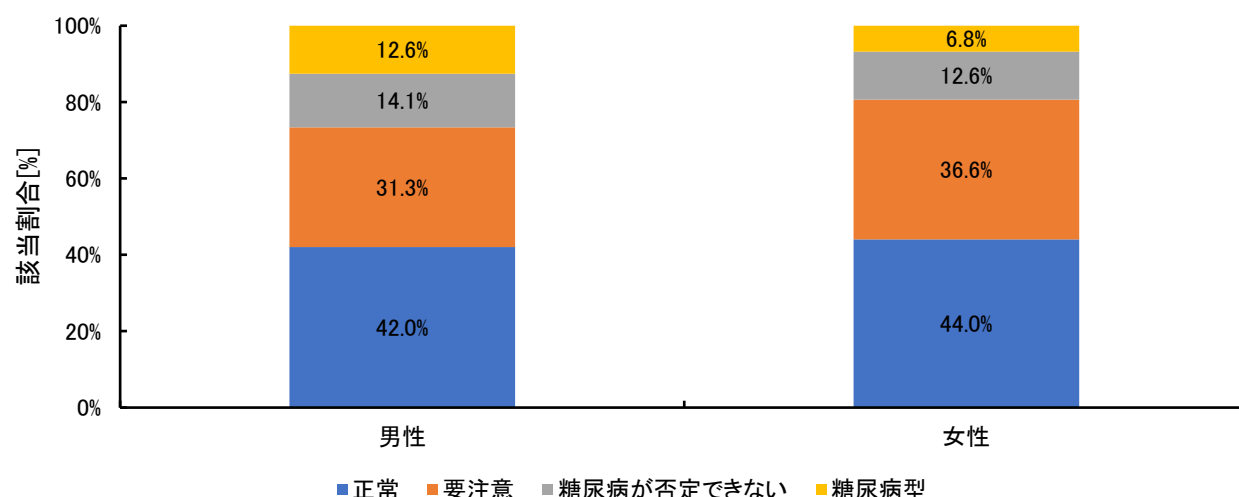


図 9-8 令和元年度の HbA1c 判定の結果

表 9-8 平成 30 年度と令和元年度の HbA1c 判定の結果

		令和元年度判定				
		正常	要注意	糖尿病が否定できない	糖尿病型	
平成30年度 判定	男性	正常	483(80%)	114(18.9%)	6(1%)	1(0.2%)
		要注意	103(21.8%)	308(65.1%)	58(12.3%)	4(0.8%)
		糖尿病が否定できない	3(1.5%)	46(23.7%)	108(55.7%)	37(19.1%)
		糖尿病型	0(0%)	4(2.5%)	35(21.6%)	123(75.9%)
	女性	正常	709(78.3%)	192(21.2%)	3(0.3%)	1(0.1%)
		要注意	193(25.8%)	491(65.6%)	63(8.4%)	1(0.1%)
		糖尿病が否定できない	7(2.6%)	63(23.2%)	173(63.8%)	28(10.3%)
		糖尿病型	0(0%)	4(3.2%)	21(16.9%)	99(79.8%)